
平成23年度
県民アンケート調査
報告書（概要版）

平成23年11月

奈良県

— 目 次 —

第1章 調査の実施概要

1 調査の目的	1
2 調査項目	1
3 調査方法	1
4 調査票の配付・回収の状況	1

第2章 調査結果の概要

1 県民の生活全般について	
1-1 現在の暮らし向きの実感	3
1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感	4
1-3 1年前と比較して暮らし向きが苦しくなった理由	5
1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無	6
1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容	7
1-6 奈良県の住みやすさの評価	8
1-7 将来の奈良県での定住意向	9
1-8 将来的に奈良県に定住したくない理由	10
2 県民の身近な生活に関する項目の重要度・満足度について	
2-1 県民の身近な生活に関する項目の重要度と満足度の関係	11
2-2 地域別の重要度・満足度の比較	13
2-3 ライフステージ別の重要度・満足度の比較	16
3 県民の仕事に関する意識やニーズについて	
3-1 職業	19
3-2 勤め先の所在地	20
3-3 県外で働いている理由	21
3-4 今の仕事を選んだ理由	22
3-5 働いていない人の求職に対する意向	23
3-6 求職者が仕事を選ぶ際に重視する条件	24
3-7 求職者が希望する通勤時間	25
3-8 働く気がない理由	26
3-9 行政が取り組むべき雇用・就労支援対策	27
4 県民のまちづくりに関する意識やニーズについて	
4-1 地域のまちづくりの評価	28
4-2 地域で充実してほしい施設	29
4-3 不安に感じる犯罪	30
4-4 日頃から行っている災害等への備え	31
4-5 地域の生活環境の変化に対する評価	32
4-6 地域で景観を損なう要因となっていると思うもの	33

第1章 調査の実施概要

1 調査の目的

県民にとって身近な生活に関する事柄についての重要度・満足度のほか、「仕事」や「まちづくり」に関する意識やニーズを把握し、今後の県政運営の基礎資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

2 調査項目

県民の生活全般に関する項目、県民にとって身近な生活に関する項目についての重要度と満足度を5段階で問う項目、「仕事」や「まちづくり」に関する意識やニーズ及び回答者の属性を問うフェイシートから構成されています。

3 調査方法

- ◇調査地域：奈良県全域
- ◇調査対象：県内在住の満20歳以上の男女・個人
- ◇調査標本数：5,000人
- ◇標本抽出法：層化二段無作為抽出法
- ◇調査方法：郵送配付・郵送回収
- ◇調査時期：平成23年5月20日～6月8日

4 調査票の配付・回収の状況

調査票配付件数 5,000件 → 有効回答数(率) 2,767件 (55.3%)

◆地域の区分と対応する市町村及び地域別の実有効回答数

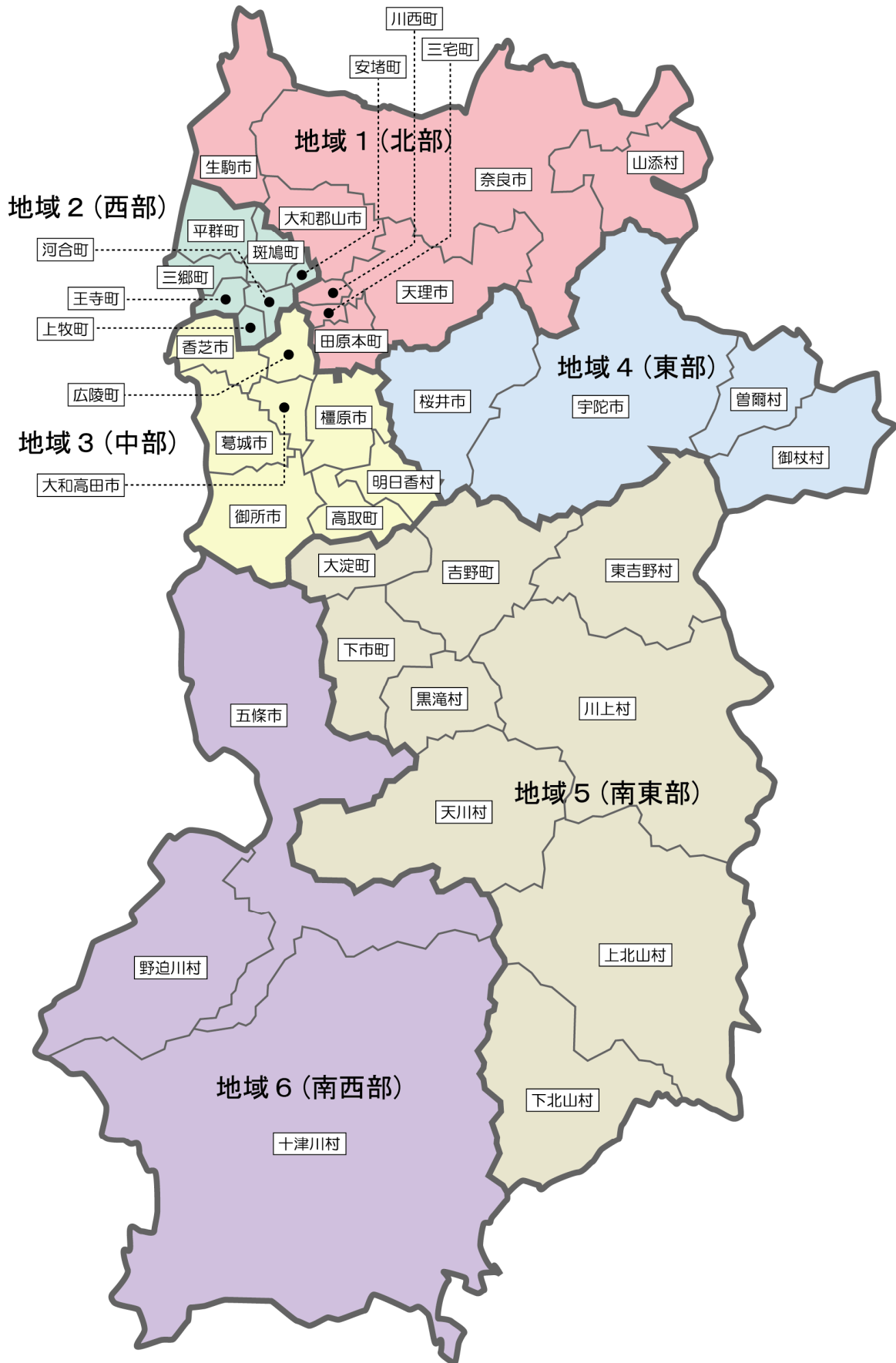
地域区分	対応する市町村	実有効回答数及び構成比
地域1(北部)	奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市・山添村・川西町・三宅町・田原本町	1,302件(47.1%)
地域2(西部)	平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・上牧町・王寺町・河合町	262件(9.5%)
地域3(中部)	大和高田市・橿原市・御所市・香芝市・葛城市・高取町・明日香村・広陵町	679件(24.5%)
地域4(東部)	桜井市・宇陀市・曽爾村・御杖村	220件(8.0%)
地域5(南東部)	吉野町・大淀町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上村・東吉野村	204件(7.4%)
地域6(南西部)	五條市・野迫川村・十津川村	100件(3.6%)
合計		2,767件

◆ライフステージの区分と区分の設定条件及び実有効回答数

ライフステージ区分	区分の設定条件	実有効回答数及び構成比
若者	20～29歳で、夫婦のみの世帯以外の世帯の回答者	227件(8.2%)
夫婦	20～64歳で、夫婦のみの世帯の回答者	305件(11.0%)
育児期	小学校入学前の子どもがいる世帯の回答者	134件(4.8%)
教育期前期	小・中学生、高校生の子どもがいる世帯の回答者	379件(13.7%)
教育期後期	専門学校生・短大生・大学生(院生)の子どもがいる世帯の回答者	300件(10.8%)
単身高齢者	65歳以上の単身世帯の回答者	83件(3.0%)
高齢者夫婦	65歳以上の夫婦のみの世帯の回答者	321件(11.6%)
対象者数		2,767件

(注) ライフステージ区分は、「年齢」、「世帯構成」、「子どもの成長段階」の複数の要素を組み合わせて設定している。区分に該当しない対象者、2人以上の子どもがいる対象者がいるため、実有効回答数の合計(1,749件)は対象者数(2,767件)と一致しない。なお、構成比は対象者数に対する比率である。

【県内地域区分図】



第2章 調査結果の概要

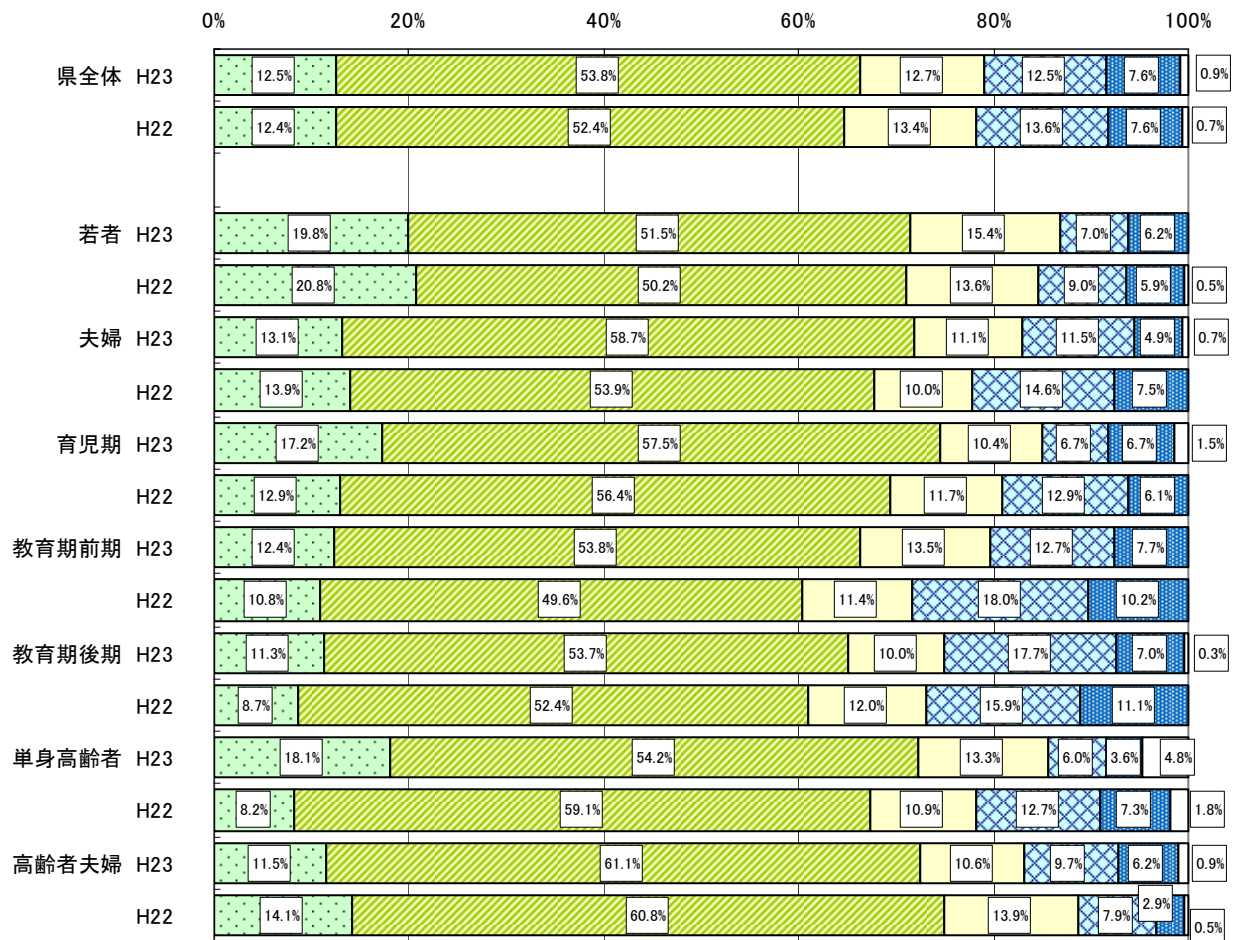
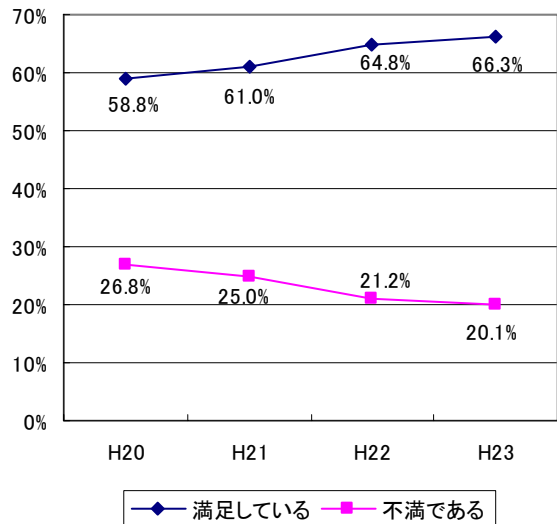
1 県民の生活全般について

1-1 現在の暮らし向きの実感

◇4年間で比較すると、「満足」（「満足している」＋「十分とはいえないが一応満足している」）している人は増加し続け、「不満」（「不満である」＋「やや不満である」）を抱えている人は減少し続けています。

平成22年度と比較すると、「満足」している人が1.5ポイント増加し、「不満」を抱えている人が1.1ポイント減少しています。

◇ライフステージ別にみると、他のライフステージに比べ、「教育期前期」（20.4%）、「教育期後期」（24.7%）で現在の暮らし向きに対し「不満」を抱えている人が多くなっています。

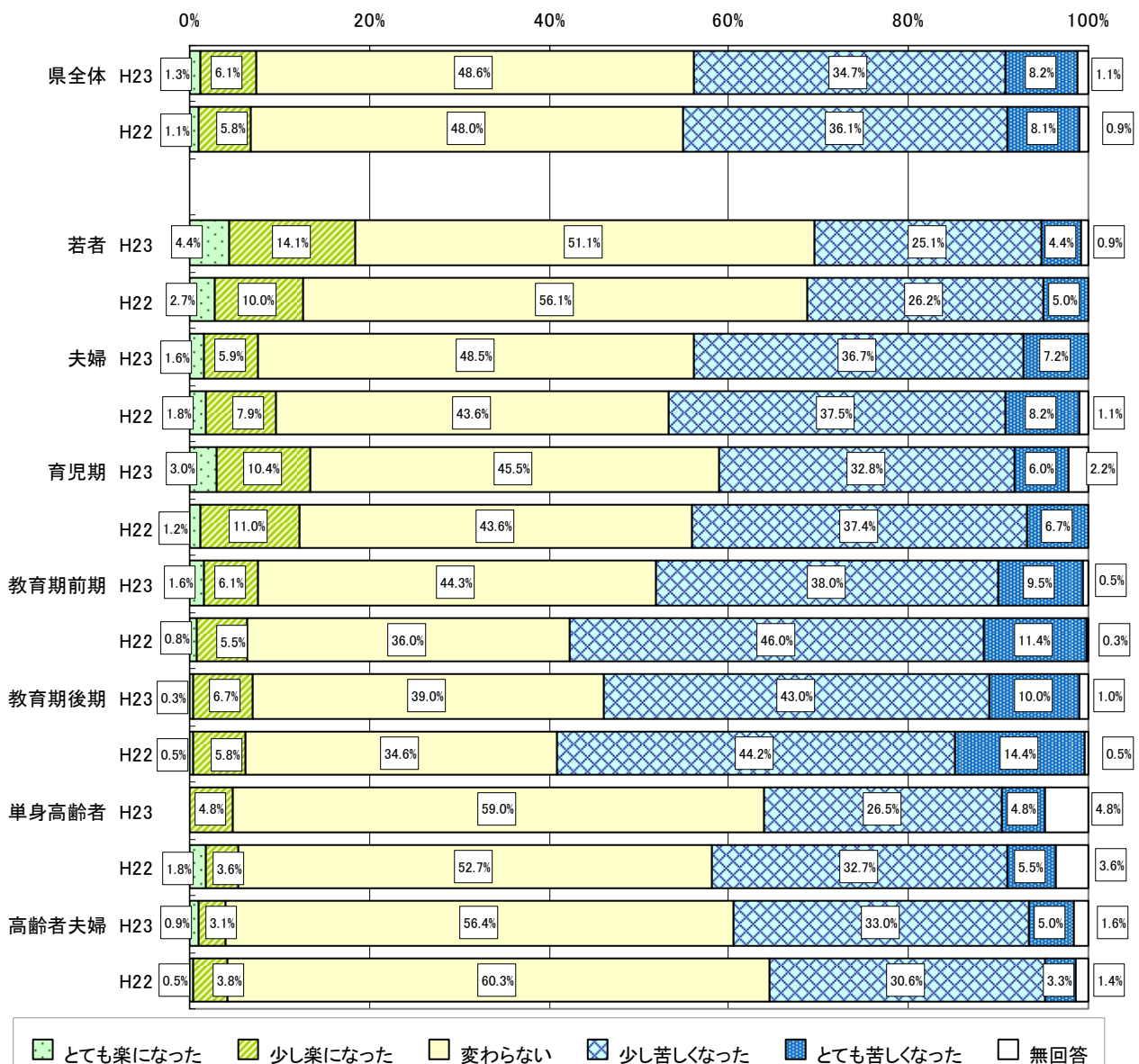
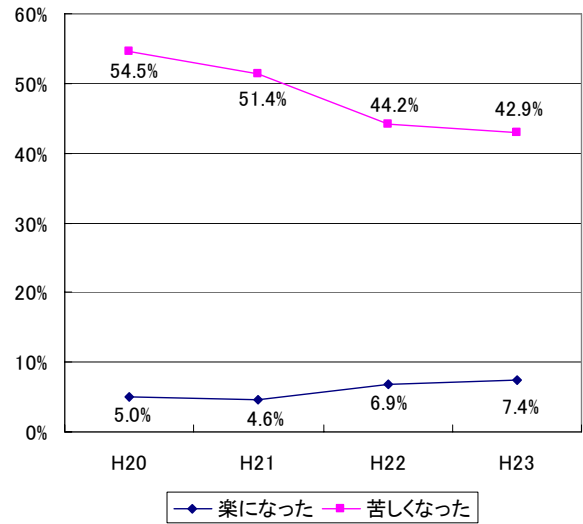


■ 満足している ■ 十分とはいえないが一応満足している ■ どちらともいえない ■ やや不満である ■ 不満である ■ 無回答

1-2 1年前と比較した暮らし向きの実感

◇「楽になった」（「とても楽になった」＋「少し楽になった」）と感じている人は、平成20年度から平成21年度にかけて0.4ポイント減少しましたが、平成21年度から平成23年度にかけては増加しています。一方で、「苦しくなった」（「少し苦しくなった」＋「とても苦しくなった」）と感じている人は減少し続けています。

◇ライフステージ別にみると、「苦しくなった」と感じている人は、「教育期前期」（47.5%）と「教育期後期」（53.0%）で他のライフステージに比べて多くなっています。平成22年度と比較すると、「高齢者夫婦」（4.1ポイント増）を除く全てのライフステージで「苦しくなった」と感じている人が減少しています。



1-3 1年前と比較して暮らし向きが苦しくなった理由

◇1年前と比較して暮らし向きが「苦しくなった」と感じている人に対して、その理由をたずねたところ、「給料や収益が増えない、または減少したから」(69.0%)が最も多く、次いで「税金や保険料の支払いが増えたから」(35.8%)、「家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから」(29.3%)が多く挙げられています。

◇ライフステージ別にみると、「育児期」以外では「給料や収益が増えない、または減少したから」が最も多くなっており、「育児期」では「家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから」が最も多くなっています。

また、「育児期」では「結婚、出産、病気など特別な出費があったから」、「教育期前期」や「教育期後期」では「教育にかかる費用が増えたから」、「単身高齢者」や「高齢者夫婦」では「利率の低下などにより預貯金が目減りしたから」を選んだ人が多く、ライフステージ毎に特徴が見られます。

(上段：平成23年度結果、下段：前年度からの増減値)

	給料や収益が増えない、または減少したから	税金や保険料の支払いが増えたから	家や自動車、家電などにかかる支出が増えたから	家族の増加や物価の上昇などで毎日の生活費が増えたから	教育にかかる費用が増えたから	利率の低下などにより預貯金が目減りしたから	失業、退職、病気などで働き手が減ったから	結婚、出産、病気など特別な出費があったから	家業や商売などにかかる営業経費が増えたから	その他
県全体	69.0% ▲1.8	35.8% ▲1.4	29.3% ▲3.1	27.5% ▲3.1	23.1% ▲2.1	22.7% ▲0.8	18.8% ▲0.3	15.3% ▲1.7	7.6% ▲0.2	8.8% ▲1.5
若者	68.7% ▲5.3	37.3% ▲2.5	29.9% ▲12.2	28.4% ▲5.2	13.4% ▲9.8	9.0% ▲1.2	19.4% ▲2.3	11.9% ▲12.7	1.5% ▲0.0	10.4% ▲4.7
夫婦	76.1% ▲1.2	32.1% ▲6.2	25.4% ▲0.4	23.1% ▲0.3	2.2% ▲0.7	27.6% ▲1.3	24.6% ▲9.8	25.4% ▲5.8	5.2% ▲6.5	6.7% ▲0.5
ライフステージ別										
育児期	53.8% ▲19.8	28.8% ▲14.2	32.7% ▲2.0	59.6% ▲8.4	23.1% ▲8.9	3.8% ▲3.1	19.2% ▲8.1	40.4% ▲2.7	5.8% ▲4.0	7.7% ▲6.3
教育期前期	78.3% ▲2.3	35.0% ▲7.0	32.2% ▲2.8	37.2% ▲3.9	71.1% ▲3.0	12.8% ▲1.7	7.8% ▲1.5	7.2% ▲1.0	5.6% ▲2.2	4.4% ▲1.1
教育期後期	80.5% ▲3.9	29.6% ▲6.6	28.9% ▲0.2	27.7% ▲7.2	75.5% ▲9.9	16.4% ▲1.6	10.1% ▲8.0	10.1% ▲4.3	10.7% ▲4.1	4.4% ▲2.8
単身高齢者	30.8% ▲4.9	11.5% ▲19.4	11.5% ▲7.5	11.5% ▲14.7	0.0% ▲0.0	23.1% ▲7.9	3.8% ▲12.8	15.4% ▲1.3	0.0% ▲4.8	26.9% ▲3.1
高齢者夫婦	45.9% ▲4.4	44.3% ▲6.4	28.7% ▲4.0	18.0% ▲1.1	0.0% ▲1.4	38.5% ▲7.5	18.0% ▲7.5	15.6% ▲5.6	6.6% ▲2.3	15.6% ▲0.8

(注) 集計結果は「県全体」の平成23年度の結果が多い項目順(「その他」を除く)に並べている。

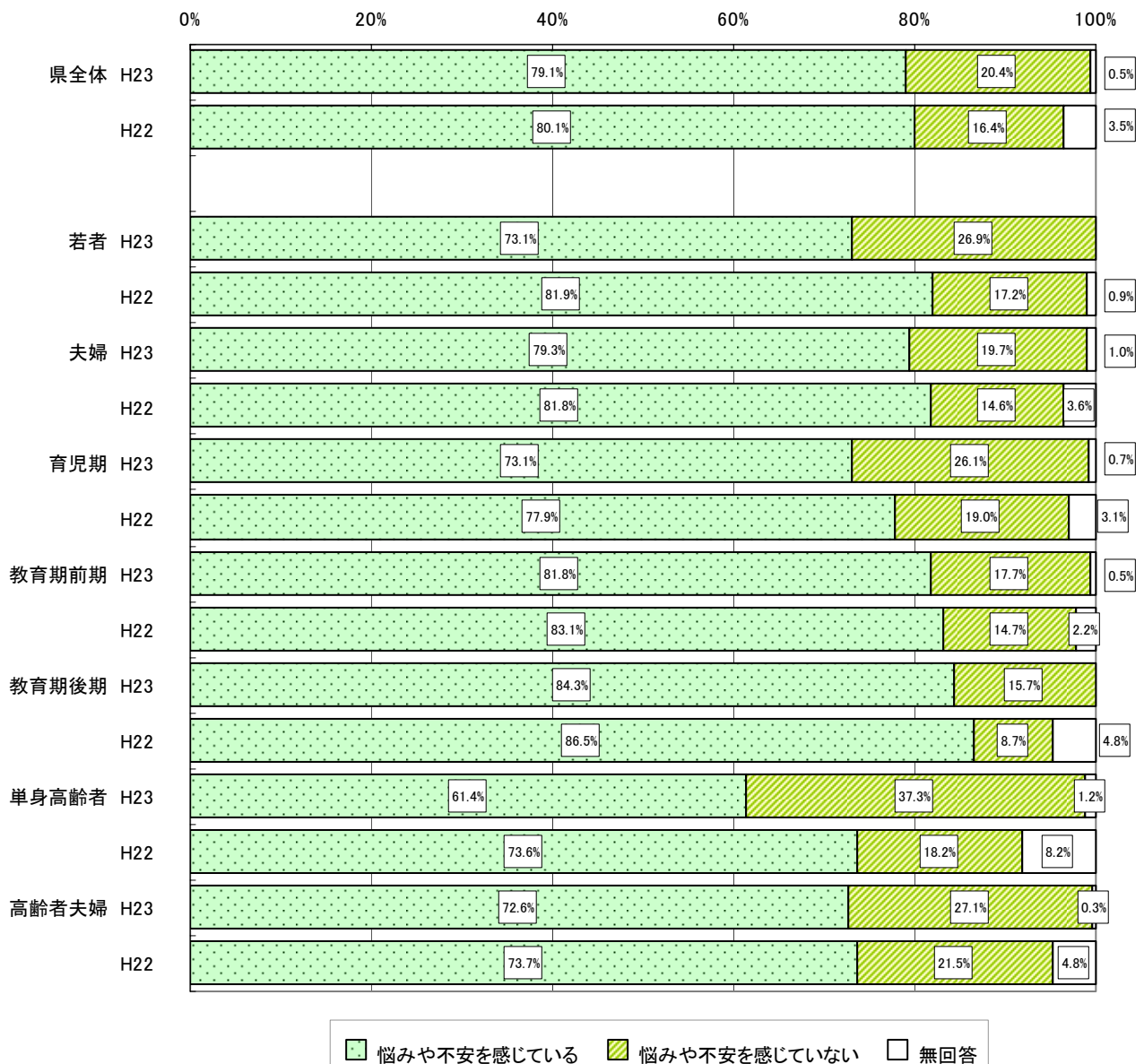
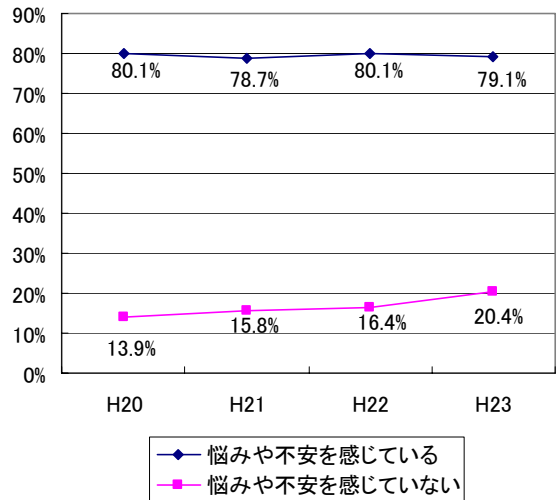
太字は「その他」を除いた平成23年度の結果の各属性区分の上位3項目を示し、下線を付した数値は最多項目を示している。また、網かけは平成22年度よりも5ポイント以上増えた項目を示している。

1-4 日頃の生活での悩みや不安の有無

◇平成20年度以降、約80%の人が日頃の生活に対して「悩みや不安を感じている」一方で、「悩みや不安を感じていない」人は4年連続で増加しています。

◇ライフステージ別にみると、「教育期前期」、「教育期後期」では「悩みや不安を感じている」人が80%以上を占めており、他のライフステージに比べてやや多くなっています。

平成22年度と比較すると、全てのライフステージで「悩みや不安を感じている」人が減少しており、特に「単身高齢者」(12.2ポイント)や「若者」(8.8ポイント)で減少幅が大きくなっています。



1-5 日頃の生活での悩みや不安の内容

◇日頃の生活で「悩みや不安を感じている」人に対して、その内容をたずねたところ、「老後の生活設計について」(58.5%)が最も多く、次いで「自分の健康について」(57.0%)、「今後の収入や資産の見通しについて」(54.3%)と続いています。上位2項目は平成22年度と同じ項目となっており、その他の項目についても大きな順位変動はありません。

◇ライフステージ別にみると、「若者」では「自分の生活上(進学、就職、結婚など)の問題について」、「夫婦」では「老後の生活設計について」、「育児期」、「教育期前期」及び「教育期後期」では「今後の収入や資産の見通しについて」、「単身高齢者」と「高齢者夫婦」では「自分の健康について」がそれぞれ最も多くなっており、ライフステージによって悩みや不安の違いが見られます。

(上段：平成23年度結果、下段：前年度からの増減値)

	老後の生活設計について	自分の健康について	今後の収入や資産の見通しについて	家族の健康について	現在の収入や資産について	家族の生活上(進学、就職、結婚など)の問題について	自分の生活上(進学、就職、結婚など)の問題について	勤務先での仕事や人間関係について	家族・親族間の人間関係について	事業や家業の経営上の問題について	近隣・地域との関係について	その他
県全体	58.5%	57.0%	54.3%	52.1%	35.1%	30.2%	14.7%	12.6%	12.2%	10.0%	8.8%	3.4%
	0.8	0.5	3.4	0.4	2.7	2.5	1.3	1.5	▲0.5	▲0.9	▲0.5	▲0.1
若者	24.1%	24.7%	56.0%	31.3%	43.4%	17.5%	65.1%	23.5%	11.4%	2.4%	4.8%	3.0%
	1.4	▲6.8	▲0.9	▲4.6	5.3	0.3	▲1.8	▲5.8	0.4	▲2.6	▲1.3	0.2
夫婦	74.0%	64.5%	55.8%	60.7%	37.6%	16.5%	4.5%	7.9%	12.0%	9.1%	7.0%	4.1%
	▲2.9	8.1	▲2.7	2.7	9.2	1.2	▲1.1	0.9	▲0.2	▲3.6	▲1.7	▲0.2
育児期	38.8%	31.6%	64.3%	48.0%	57.1%	24.5%	11.2%	19.4%	24.5%	12.2%	11.2%	3.1%
	4.1	▲4.6	▲10.5	3.1	7.5	▲0.7	▲0.6	▲1.9	11.9	1.2	4.1	▲2.5
教育期前期	50.0%	41.6%	67.4%	43.2%	41.9%	52.6%	11.0%	17.1%	13.2%	13.9%	11.0%	2.3%
	1.7	▲0.4	3.1	▲1.4	▲2.1	2.6	3.6	▲1.6	▲1.1	1.9	3.3	0.9
教育期後期	65.6%	51.0%	66.8%	49.8%	32.4%	63.6%	6.7%	15.8%	8.7%	9.9%	7.5%	2.0%
	3.4	4.3	4.6	2.0	▲3.7	9.7	0.1	0.8	▲1.3	▲4.6	▲2.5	▲1.9
単身高齢者	58.8%	78.4%	25.5%	7.8%	19.6%	5.9%	3.9%	2.0%	13.7%	2.0%	15.7%	9.8%
	▲2.9	▲0.6	0.8	▲13.1	▲10.0	▲2.8	1.5	0.7	▲3.6	▲4.2	▲0.4	7.3
高齢者夫婦	60.1%	78.1%	30.5%	69.1%	24.5%	8.2%	0.4%	0.9%	9.9%	7.3%	12.9%	4.7%
	▲1.9	5.1	▲2.6	▲3.6	1.7	▲3.5	▲0.2	0.2	▲0.2	0.2	2.8	0.8

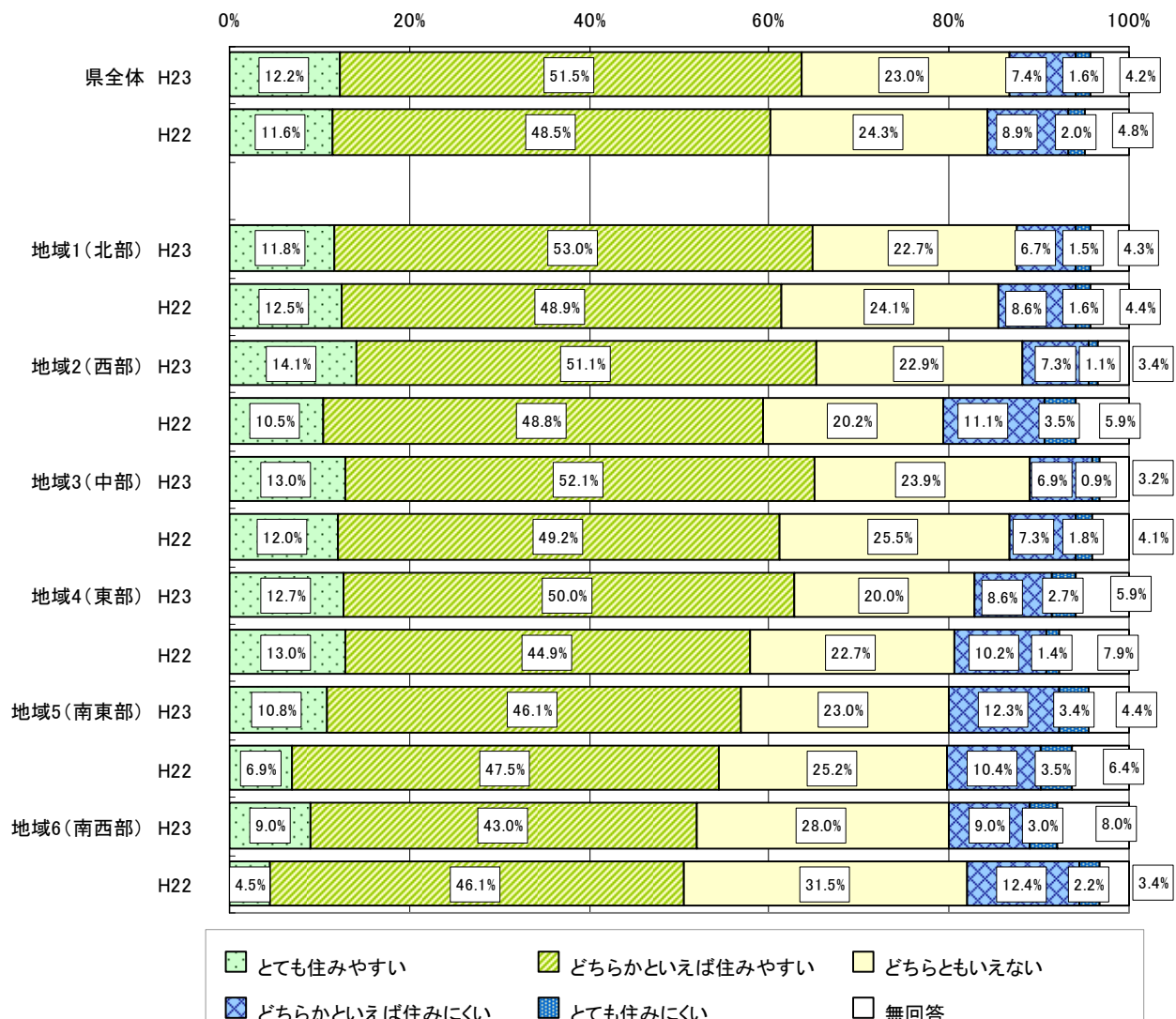
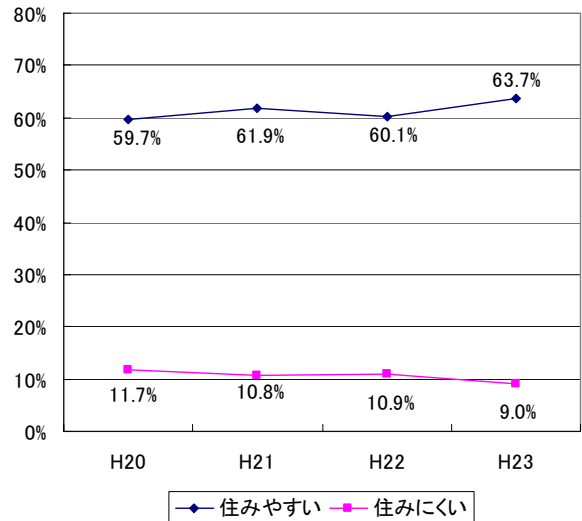
(注) 集計結果は「県全体」の平成23年度の結果が多い項目順(「その他」を除く)に並べている。

太字は「その他」を除いた平成23年度の結果の各属性区分の上位3項目を示し、下線を付した数値は最多項目を示している。また、網かけは平成22年度よりも5ポイント以上増えた項目を示している。

1-6 奈良県の住みやすさの評価

◇平成20年度から平成23年度にかけて奈良県が「住みやすい」（「とても住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」）と感じている人は60%前後で推移しています。また「住みにくい」（「どちらかといえば住みにくい」+「とても住みにくい」）と感じている人は、平成22年度以前は10%を超えていましたが、平成22年度から平成23年度にかけて1.9ポイント減少し9.0%となりました。

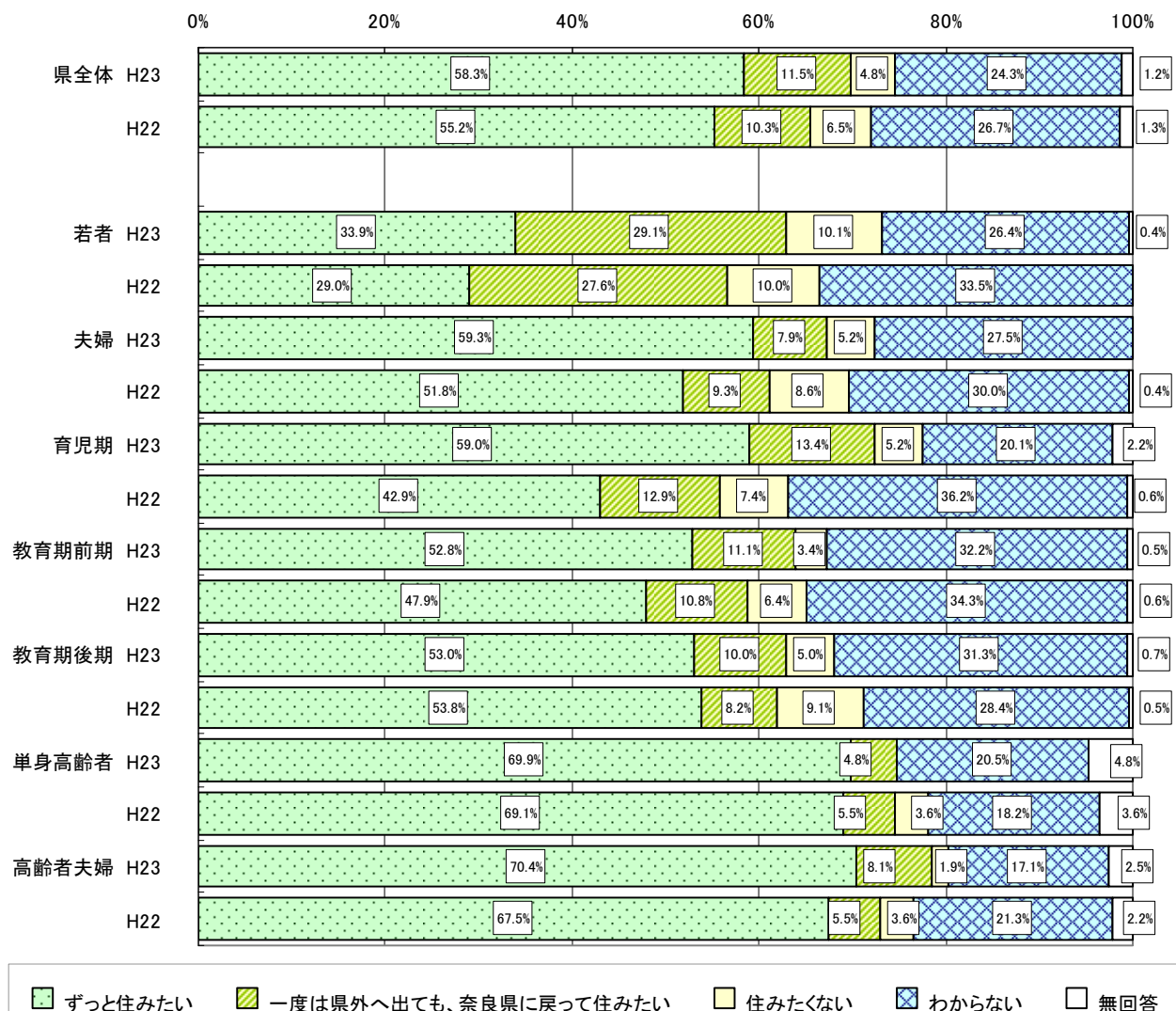
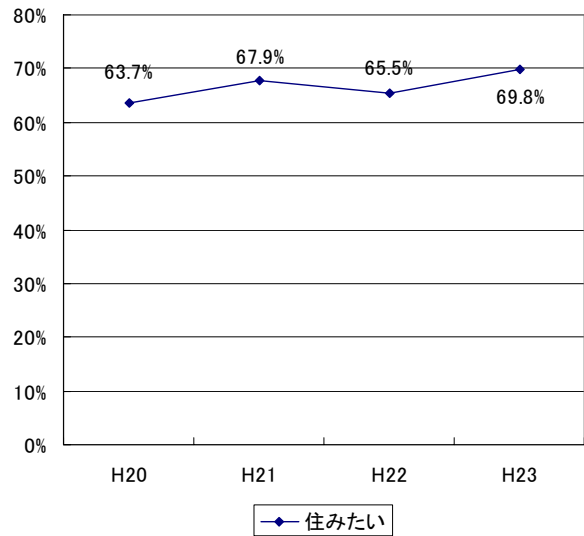
◇地域別にみると、「住みやすい」と感じている人は、「地域1（北部）」、「地域2（西部）」、「地域3（中部）」で「県全体」よりも多くなっています。一方、「住みにくい」と感じている人は、「地域5（南東部）」（15.7%）で最も多くなっています。



1-7 将来の奈良県での定住意向

◇奈良県に「住みたい」（「ずっと住みたい」＋「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」と考えている人は平成22年度まで65%前後で推移してきましたが、平成23年度には70%近くまで増加しています。

◇ライフステージ別にみると、「若者」では「ずっと住みたい」（33.9%）と考えている人が最も少ない一方で、「一度は県外へ出て、奈良県に戻って住みたい」（29.1%）と考えている人は最も多く、将来的に奈良県で「住みたい」と考えている人は63.0%となっています。
平成22年度と比較すると、全てのライフステージで「住みたい」と考えている人は増加しています。



1-8 将来的に奈良県に定住したくない理由

◇将来的に奈良県に「住みたくない」人と「わからない」人に対して、その理由をたずねたところ、「医療が充実していないから」(47.1%)が最も多く、以下、「買物など日常の生活環境が整っていないから」(37.4%)、「福祉サービスが充実していないから」(30.9%)と続いています。

平成22年度と比較すると、上位6項目までが同じであり、その他の項目についても大きな順位変動はありません。

◇ライフステージ別にみると、「若者」では「通勤・通学に不便だから」、「単身高齢者」では「買物など日常の生活環境が整っていないから」、その他のライフステージでは「医療が充実していないから」が最も多くなっています。

平成22年度と比較すると、特に「単身高齢者」と「高齢者夫婦」で5ポイント以上増加した項目が多く、その増加幅も他のライフステージに比べて大きい傾向が見られます。

(上段：平成23年度結果、下段：前年度からの増減値)

	医療が充実していないから	買物など日常の生活環境が整っていないから	福祉サービスが充実していないから	通勤・通学に不便だから	身近に文化やスポーツに親しめる場が少ないから	奈良県や身近な地域に愛着を感じないから	災害を防ぐための対策が不十分だから	教育環境が充実していないから	治安を守るための対策が不十分だから	家賃など住居費が高いから	騒音・振動・大気汚染など周辺環境がよくないから	緑などの自然環境がよくないから	その他
県全体	47.1%	37.4%	30.9%	30.6%	21.0%	18.9%	17.8%	13.7%	11.3%	8.2%	4.7%	2.4%	24.6%
	1.6%	▲1.8%	▲1.2%	0.2%	▲2.2%	▲1.8%	5.4%	0.1%	0.8%	0.1%	▲2.5%	▲1.1%	2.2%
若者	38.6%	33.7%	16.9%	42.2%	19.3%	13.3%	12.0%	18.1%	13.3%	8.4%	2.4%	2.4%	22.9%
	1.1%	▲12.1%	▲5.0%	▲3.7%	▲4.7%	▲2.4%	5.8%	▲1.7%	7.0%	1.1%	▲0.7%	1.4%	▲2.1%
夫婦	44.0%	35.0%	22.0%	23.0%	17.0%	29.0%	19.0%	4.0%	10.0%	13.0%	6.0%	4.0%	37.0%
	▲6.9%	0.7%	▲16.0%	▲2.0%	▲4.3%	6.8%	7.0%	▲3.4%	2.6%	4.7%	▲1.4%	1.2%	8.3%
育児期	41.2%	35.3%	32.4%	35.3%	17.6%	11.8%	5.9%	32.4%	2.9%	5.9%	2.9%	5.9%	32.4%
	▲2.5%	1.5%	9.8%	2.9%	▲7.7%	▲12.2%	▲4.0%	▲0.0%	▲4.1%	0.2%	▲2.7%	▲1.2%	12.6%
教育期前期	54.1%	30.4%	23.0%	29.6%	24.4%	22.2%	10.4%	24.4%	13.3%	8.9%	4.4%	1.5%	23.7%
	5.1%	1.1%	▲5.6%	▲3.0%	1.3%	1.1%	▲0.5%	▲4.8%	3.8%	1.4%	1.7%	▲0.6%	▲0.1%
教育期後期	46.8%	33.0%	27.5%	35.8%	19.3%	17.4%	15.6%	20.2%	4.6%	10.1%	1.8%	0.9%	26.6%
	▲4.5%	1.0%	▲9.7%	1.2%	3.9%	▲9.5%	6.6%	7.4%	0.7%	3.7%	▲5.9%	▲0.4%	▲0.3%
単身高齢者	47.1%	64.7%	23.5%	23.5%	17.6%	17.6%	29.4%	0.0%	11.8%	11.8%	0.0%	5.9%	17.6%
	22.1%	31.4%	▲9.8%	19.4%	▲7.4%	9.3%	8.6%	▲8.3%	3.4%	7.6%	▲4.2%	1.7%	▲11.5%
高齢者夫婦	65.6%	45.9%	57.4%	19.7%	19.7%	8.2%	37.7%	6.6%	19.7%	3.3%	8.2%	0.0%	21.3%
	16.5%	▲1.2%	12.2%	11.0%	▲4.4%	▲21.6%	17.5%	1.7%	▲1.5%	▲7.3%	0.5%	▲5.8%	8.8%

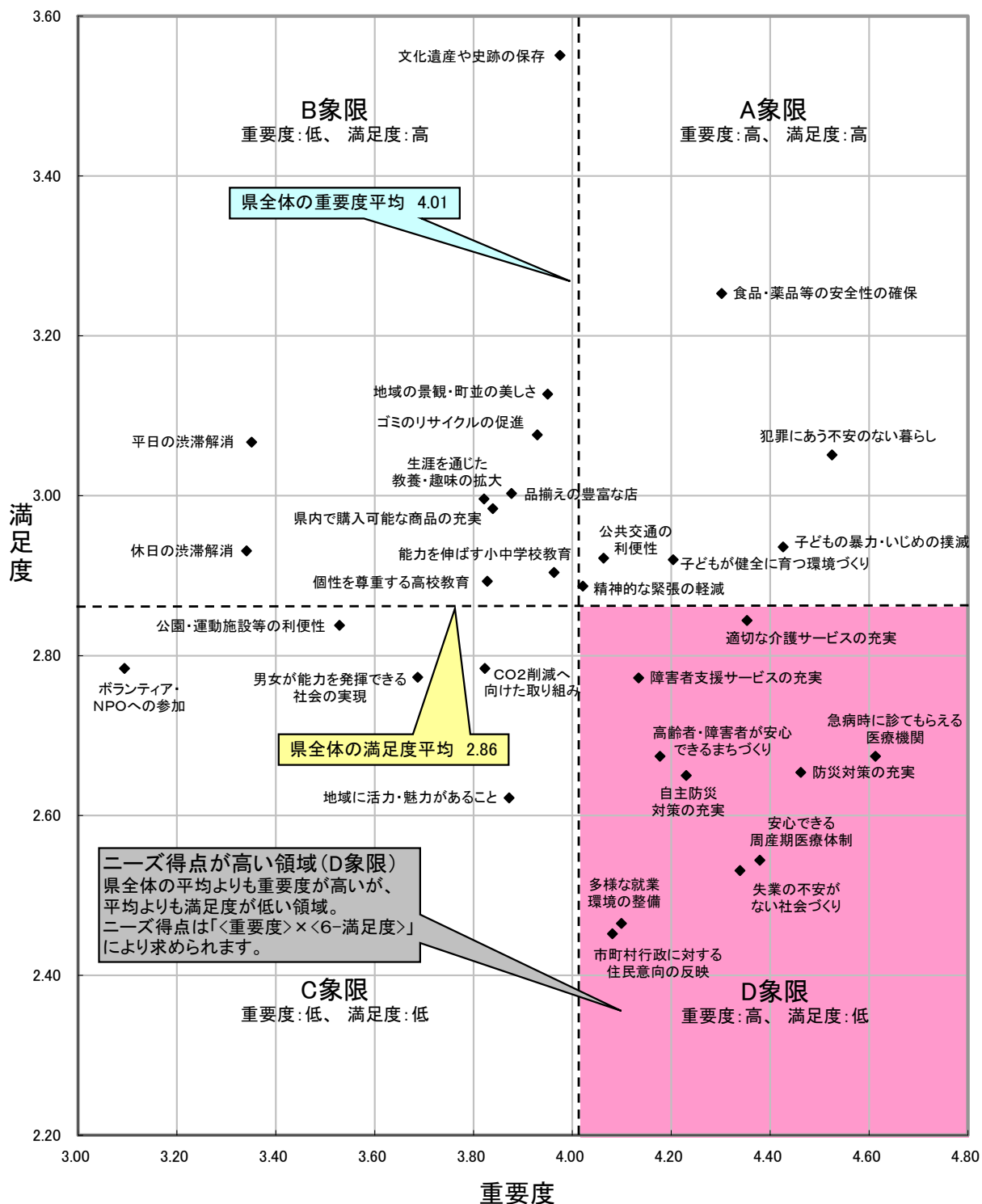
(注) 集計結果は「県全体」の平成23年度の結果が多い項目順(「その他」を除く)に並べている。

太字は「その他」を除いた平成23年度の結果の各属性区分の上位3項目を示し、下線を付した数値は最多項目を、斜体は同率であることを示している。また、網かけは平成22年度よりも5ポイント以上増えた項目を示している。

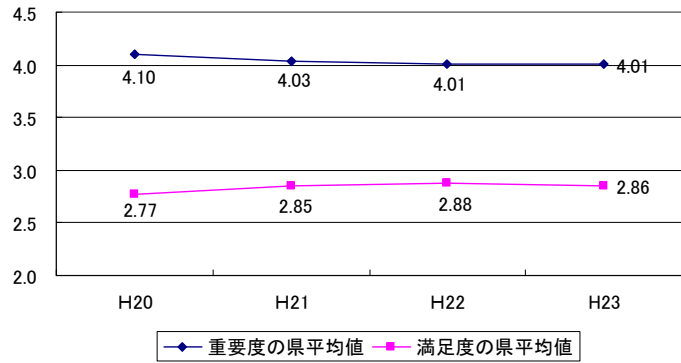
2 県民の身近な生活に関する項目の重要度・満足度について

2-1 県民の身近な生活に関する項目の重要度と満足度の関係

- ◇身近な生活に関する31項目それぞれについて、重要度と満足度の関係を整理しました。また、重要度と満足度の関係から課題・ニーズの大きさの指標となる「ニーズ得点」を算出しました。
- ◇「重要度が高く、満足度が低い」図の右下の領域に属する「急病時に診てもらえる医療機関」、「安心できる周産期医療体制」、「失業の不安がない社会づくり」、「防災対策の充実」などは、特にニーズ得点が高い項目です。



◇県民の身近な生活に関する31項目の重要度と満足度の県平均値の推移を見ると、平成22年度までの3年間は、重要度の平均値は年々低下し、満足度の平均値は年々増加してきましたが、平成23年度では、重要度は一定、満足度は減少しています。



【身近な生活に関する31項目の重要度・満足度・ニーズ得点（4年間の比較）】

項目番号	項目	重要度				満足度				ニーズ得点				重要度と満足度の関係			
		H23	H22	H21	H20	H23	H22	H21	H20	H23	H22	H21	H20	H23	H22	H21	H20
1	品揃えの豊富な店が近くにあること	3.88	3.91	3.85	3.73	3.00	3.10	3.01	3.01	11.62	11.37	11.52	11.18	B	B	B	B
2	電車、バス、タクシーなどの公共的な交通機関が利用しやすいこと	4.06	4.12	4.08	4.09	2.92	3.09	3.03	2.95	12.51	12.00	12.13	12.46	A	A	A	B
3	休日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.34	3.34	3.35	3.35	2.93	2.94	2.95	2.87	10.25	10.22	10.22	10.48	B	B	B	B
4	平日の道路の渋滞が解消され、自動車での外出が快適なこと	3.35	3.34	3.33	3.38	3.07	3.09	3.08	2.95	9.83	9.72	9.72	10.32	B	B	B	B
5	小・中学校で子どもの能力を伸ばす教育が受けられること	3.96	3.97	3.97	4.22	2.90	2.89	2.88	2.83	12.27	12.34	12.38	13.37	B	B	B	A
6	高校で生徒一人ひとりに適した教育が受けられること	3.83	3.81	3.82	3.94	2.89	2.87	2.87	2.80	11.89	11.94	11.96	12.62	B	C	B	B
7	子どもたちが、暴力行為・いじめなどを行わないこと	4.43	4.41	4.45	4.60	2.94	2.90	2.89	2.64	13.56	13.69	13.85	15.43	A	A	A	D
8	文化遺産や史跡が大事にされること	3.98	4.01	3.99	3.97	3.55	3.51	3.49	3.40	9.73	10.00	10.02	10.31	B	A	B	B
9	生涯を通じて教養を高め、趣味を広げられること	3.82	3.84	3.86	3.97	3.00	2.99	2.98	2.99	11.48	11.58	11.64	11.95	B	B	B	B
10	公園や運動施設・グラウンドなどが利用しやすいこと	3.53	3.51	3.55	3.64	2.84	2.88	2.85	2.84	11.16	10.96	11.16	11.52	C	B	B	B
11	地震、台風、火災などへの対策がしっかりしていること	4.46	4.36	4.39	4.55	2.65	2.79	2.76	2.52	14.93	14.02	14.22	15.81	D	D	D	D
12	食品や薬品などの商品・サービスの安全性が確保されていること	4.30	4.33	4.34	4.46	3.25	3.25	3.18	2.76	11.82	11.90	12.24	14.43	A	A	A	D
13	家庭や地域において、地震などの自然災害に対する自主的な備えができていないこと	4.23	4.13	4.14	4.31	2.65	2.76	2.72	2.52	14.17	13.40	13.59	15.00	D	D	D	D
14	住民が犯罪に遭うことがなく、その不安も感じることなく暮らせること	4.53	4.51	4.56	4.65	3.05	3.03	3.02	2.62	13.34	13.39	13.60	15.74	A	A	A	D
15	自分が住んでいる地域に活気があり、魅力のある地域になっていること	3.87	3.85	3.84	3.69	2.62	2.65	2.66	2.63	13.08	12.89	12.85	12.45	C	C	C	C
16	ボランティア・NPO活動に気軽に参加できること	3.09	3.10	3.10	3.22	2.78	2.85	2.83	2.75	9.95	9.76	9.81	10.46	C	C	C	C
17	男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会が実現すること	3.69	3.68	3.73	4.02	2.77	2.78	2.76	2.84	11.90	11.85	12.09	12.69	C	C	C	B
18	市町村の政治に住民の要望や意見が十分採り入れられること	4.08	4.07	4.13	4.18	2.45	2.52	2.45	2.39	14.48	14.16	14.66	15.08	D	D	D	D
19	急病時に診てもらえる医療機関があること	4.61	4.61	4.66	4.66	2.67	2.70	2.68	2.62	15.34	15.22	15.47	15.77	D	D	D	D
20	安心して子どもを出産できる医療体制が整っていること	4.38	4.40	4.46	4.58	2.54	2.51	2.43	2.35	15.13	15.38	15.93	16.75	D	D	D	D
21	障害者が住み慣れた地域で自分に合った支援サービスを受けられること	4.13	4.18	4.19	4.17	2.77	2.75	2.74	2.69	13.34	13.57	13.65	13.83	D	D	D	D
22	高齢者やその家族が住み慣れた地域で適切な介護サービスを受けられること	4.35	4.39	4.43	4.35	2.84	2.82	2.78	2.73	13.74	13.95	14.26	14.24	D	D	D	D
23	高齢者や障害者が安心してまちに出かけられること	4.18	4.22	4.23	4.25	2.67	2.71	2.67	2.60	13.89	13.90	14.09	14.45	D	D	D	D
24	地域・家庭・学校が一体となって、子どもが健全に育つ環境づくりを行っていること	4.20	4.23	4.25	4.29	2.92	2.92	2.93	2.90	12.95	13.03	13.05	13.28	A	A	A	A
25	イライラやストレスなど精神的緊張が少ないこと	4.02	4.01	4.00	4.18	2.89	2.94	2.87	2.70	12.52	12.26	12.49	13.79	A	A	B	D
26	自分の住む地域の景観や町並みが美しいこと	3.95	3.94	3.96	3.98	3.13	3.16	3.14	3.25	11.35	11.18	11.34	10.94	B	B	B	B
27	一人ひとりが普段の生活においてCO2削減に取り組むこと	3.82	3.80	3.93	4.15	2.78	2.80	2.74	2.64	12.29	12.18	12.81	13.93	C	C	C	D
28	ゴミのリサイクルのしくみが整っていること	3.93	3.93	4.01	4.28	3.08	3.11	3.05	3.08	11.49	11.36	11.82	12.50	B	B	B	A
29	失業の不安がなく働けること	4.34	4.36	4.41	4.40	2.53	2.51	2.47	2.62	15.05	15.25	15.56	14.87	D	D	D	D
30	県内で買いたいものが販売されていること	3.84	3.79	3.82	3.80	2.98	2.98	2.95	2.95	11.58	11.44	11.64	11.61	B	B	B	B
31	いろいろな働き方が用意され、自分の生活に合った就業ができること	4.10	4.05	4.09	3.90	2.47	2.48	2.47	2.47	14.49	14.23	14.45	13.76	D	D	D	C

(注)「重要度と満足度の関係」の各年度のA～Dの記号の対応については、前ページの「重要度と満足度の関係図」のA～Dの象限に対応している。
網かけをした項目は満足度が31項目の平均値を下回るものであり、ピンク色の網掛けはそのうち重要度が平均値を上回るもの、すなわち重要度が高いにもかかわらず満足度が低い項目である。

2-2 地域別の重要度・満足度の比較

(1) 県全体及び地域別の重要度上位5項目の傾向

◇重要度上位5項目で、個別の地域にはあるが「県全体」にはない項目は、「適切な介護サービスの充実」（「地域1（北部）」の第5位、「地域4（東部）」の第4位）と、「失業の不安がない社会づくり」（「地域5（南東部）」の第5位）となっています。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	急病時に診て もらえる医療機関 4.61	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.53	防災対策の充実 4.46	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.43	安心できる 周産期医療体制 4.38
地域1 (北部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.61	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.54	防災対策の充実 4.47	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.42	適切な介護 サービスの充実 4.35
地域2 (西部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.56	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.52	防災対策の充実 4.45	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.40	安心できる 周産期医療体制 4.38
地域3 (中部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.64	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.56	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.48	防災対策の充実 4.47	安心できる 周産期医療体制 4.42
地域4 (東部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.63	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.50	防災対策の充実 4.47	適切な介護 サービスの充実 4.46	安心できる 周産期医療体制 4.45
地域5 (南東部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.55	防災対策の充実 4.40	安心できる 周産期医療体制 4.34	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.32	失業の不安が ない社会づくり 4.30
地域6 (南西部)	急病時に診て もらえる医療機関 4.66	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.53	防災対策の充実 4.48	安心できる 周産期医療体制 4.47	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.46

(注) 網かけは、地域にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の設定には小数第3位以下も考慮している。

(2) 県全体及び地域別の満足度上位5項目の傾向

◇満足度上位5項目で、個別の地域にはあるが「県全体」にはない項目は、「公共交通の利便性」(「地域1(北部)」の第4位)、「品揃えの豊富な店」(「地域1(北部)」の第5位)、「地域2(西部)」・「地域3(中部)」の第3位)、「県内で購入可能な商品の充実」(「地域3(中部)」の第5位)、「犯罪にあう不安のない暮らし」(「地域5(南東部)」の第2位)、「地域6(南西部)」の第5位)、「子どもの暴力・いじめの撲滅」(「地域5(南東部)」の第5位)、「休日の渋滞解消」(「地域6(南西部)」の第4位)となっています。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	文化遺産や 史跡の保存 3.55	食品・薬品等の 安全性の確保 3.25	地域の景観・ 町並の美しさ 3.13	ゴミのリサイクル の促進 3.08	平日の渋滞解消 3.07
地域1 (北部)	文化遺産や 史跡の保存 3.60	食品・薬品等の 安全性の確保 3.25	地域の景観・ 町並の美しさ 3.15	公共交通の利便性 3.12	品揃えの豊富な店 3.10
地域2 (西部)	文化遺産や 史跡の保存 3.49	食品・薬品等の 安全性の確保 3.29	品揃えの豊富な店 3.10	地域の景観・ 町並の美しさ 3.08	ゴミのリサイクル の促進 3.04
地域3 (中部)	文化遺産や 史跡の保存 3.56	食品・薬品等の 安全性の確保 3.38	品揃えの豊富な店 3.27	ゴミのリサイクル の促進 3.12	県内で購入可能な 商品の充実 3.11
地域4 (東部)	文化遺産や 史跡の保存 3.43	地域の景観・ 町並の美しさ 3.23	平日の渋滞解消 3.20	食品・薬品等の 安全性の確保 3.15	ゴミのリサイクル の促進 3.10
地域5 (南東部)	文化遺産や 史跡の保存 3.39	犯罪にあう不安 のない暮らし 3.31	ゴミのリサイクル の促進 3.28	地域の景観・ 町並の美しさ 3.22	子どもの暴力・ いじめの撲滅 3.10
地域6 (南西部)	文化遺産や 史跡の保存 3.55	地域の景観・ 町並の美しさ 3.10	平日の渋滞解消 3.08	休日の渋滞解消 3.08	犯罪にあう不安 のない暮らし 3.07

(注) 網かけは、地域にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

(3) 県全体及び地域別の満足度下位5項目の傾向

◇満足度下位5項目で、個別の地域にはあるが「県全体」にはない項目は、「自主防災対策の充実」（「地域1（北部）」・「地域2（西部）」の第27位）、「公共交通の利便性」（「地域4（東部）」の第29位、「地域5（南東部）」・「地域6（南西部）」の第30位）、「品揃えの豊富な店」（「地域5（南東部）」の第29位、「地域6（南西部）」の第28位）、「救急医療の充実」（「地域6（南西部）」の第27位）となっています。

	第31位	第30位	第29位	第28位	第27位
県全体	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.45	多様な就業環境 の整備 2.47	失業の不安が ない社会づくり 2.53	安心できる 周産期医療体制 2.54	地域に活力・ 魅力があること 2.62
地域1 （北部）	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.48	多様な就業環境 の整備 2.50	失業の不安が ない社会づくり 2.56	安心できる 周産期医療体制 2.66	自主防災対策の充実 2.67
地域2 （西部）	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.42	多様な就業環境 の整備 2.52	安心できる 周産期医療体制 2.57	失業の不安が ない社会づくり 2.60	自主防災対策の充実 2.62
地域3 （中部）	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.47	多様な就業環境 の整備 2.54	失業の不安が ない社会づくり 2.58	安心できる 周産期医療体制 2.61	地域に活力・ 魅力があること 2.65
地域4 （東部）	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.21	多様な就業環境 の整備 2.27	公共交通の利便性 2.28	地域に活力・ 魅力があること 2.36	失業の不安が ない社会づくり 2.37
地域5 （南東部）	安心できる 周産期医療体制 1.95	公共交通の利便性 2.05	品揃えの豊富な店 2.11	地域に活力・ 魅力があること 2.23	多様な就業環境 の整備 2.25
地域6 （南西部）	安心できる 周産期医療体制 1.83	公共交通の利便性 1.95	多様な就業環境 の整備 2.17	品揃えの豊富な店 2.23	救急医療の充実 2.29

(注) 網かけは、地域にはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

2-3 ライフステージ別の重要度・満足度の比較

(1) 県全体及びライフステージ別の重要度上位5項目の傾向

◇重要度上位5項目で、個別のライフステージにはあるが「県全体」にはない項目は、「失業の不安がない社会づくり」（「若者」の第5位、「単身高齢者」の第4位）、「適切な介護サービスの充実」（「夫婦」の第4位、「単身高齢者」の第2位、「高齢者夫婦」の第3位）、「子どもが健全に育つ環境づくり」（「育児期」・「教育期前期」の第5位）となっています。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	急病時に診て もらえる医療機関 4.61	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.53	防災対策の充実 4.46	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.43	安心できる 周産期医療体制 4.38
若者	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.60	急病時に診て もらえる医療機関 4.57	防災対策の充実 4.51	安心できる 周産期医療体制 4.51	失業の不安が ない社会づくり 4.50
夫婦	急病時に診て もらえる医療機関 4.69	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.60	防災対策の充実 4.49	適切な介護 サービスの充実 4.47	安心できる 周産期医療体制 4.45
育児期	急病時に診て もらえる医療機関 4.78	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.75	安心できる 周産期医療体制 4.66	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.65	子どもが健全に 育つ環境づくり 4.58
教育期 前期	急病時に診て もらえる医療機関 4.67	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.66	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.59	防災対策の充実 4.50	子どもが健全に 育つ環境づくり 4.42
教育期 後期	急病時に診て もらえる医療機関 4.63	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.60	防災対策の充実 4.56	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.50	安心できる 周産期医療体制 4.42
単身 高齢者	急病時に診て もらえる医療機関 4.41	適切な介護 サービスの充実 4.37	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.28	失業の不安が ない社会づくり 4.19	防災対策の充実 4.16
高齢者 夫婦	急病時に診て もらえる医療機関 4.55	犯罪にあう不安 のない暮らし 4.40	適切な介護 サービスの充実 4.39	防災対策の充実 4.32	子どもの暴力・ いじめの撲滅 4.30

(注) 網かけは、ライフステージにはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

(2) 県全体及びライフステージ別の満足度上位5項目の傾向

◇満足度上位5項目で、個別のライフステージにはあるが「県全体」にはない項目は、「犯罪にあう不安のない暮らし」（「若者」の第4位、「教育期後期」の第5位）、「品揃えの豊富な店」（「育児期」の第3位、「教育期前期」の第4位）、「公共交通の利便性」（「育児期」の第4位）、「生涯を通じた教養・趣味の拡大」（「単身高齢者」の第4位、「高齢者夫婦」の第3位）、「精神的な緊張の軽減」（「単身高齢者」の第5位）となっています。

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	文化遺産や史跡の保存 3.55	食品・薬品等の安全性の確保 3.25	地域の景観・町並の美しさ 3.13	ゴミのリサイクルの促進 3.08	平日の渋滞解消 3.07
若者	文化遺産や史跡の保存 3.64	食品・薬品等の安全性の確保 3.29	地域の景観・町並の美しさ 3.18	犯罪にあう不安のない暮らし 3.06	平日の渋滞解消 3.05
夫婦	文化遺産や史跡の保存 3.47	食品・薬品等の安全性の確保 3.20	平日の渋滞解消 3.07	ゴミのリサイクルの促進 3.07	地域の景観・町並の美しさ 3.06
育児期	文化遺産や史跡の保存 3.59	食品・薬品等の安全性の確保 3.32	品揃えの豊富な店 3.17	公共交通の利便性 3.07	地域の景観・町並の美しさ 3.07
教育期前期	文化遺産や史跡の保存 3.55	食品・薬品等の安全性の確保 3.31	地域の景観・町並の美しさ 3.19	品揃えの豊富な店 3.12	平日の渋滞解消 3.11
教育期後期	文化遺産や史跡の保存 3.58	食品・薬品等の安全性の確保 3.30	地域の景観・町並の美しさ 3.17	平日の渋滞解消 3.08	犯罪にあう不安のない暮らし 3.07
単身高齢者	文化遺産や史跡の保存 3.57	ゴミのリサイクルの促進 3.46	地域の景観・町並の美しさ 3.27	生涯を通じた教養・趣味の拡大 3.26	精神的な緊張の軽減 3.24
高齢者夫婦	文化遺産や史跡の保存 3.59	ゴミのリサイクルの促進 3.40	生涯を通じた教養・趣味の拡大 3.26	食品・薬品等の安全性の確保 3.26	平日の渋滞解消 3.22

(注) 網かけは、ライフステージにはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の決定は小数第3位以下も考慮している。

(3) 県全体及びライフステージ別の満足度下位5項目の傾向

◇満足度下位5項目で、個別のライフステージにはあるが「県全体」にはない項目は、「急病時に診てもらえる医療機関」(「若者」・「教育期前期」の第27位、「育児期」の第29位、「教育期後期」の第28位)、「自主防災対策の充実」(「夫婦」・「育児期」・「単身高齢者」の第27位)、「高齢者・障害者が安心できるまちづくり」(「育児期」の第28位)となっています。

	第31位	第30位	第29位	第28位	第27位
県全体	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.45	多様な就業環境 の整備 2.47	失業の不安が ない社会づくり 2.53	安心できる 周産期医療体制 2.54	地域に活力・ 魅力があること 2.62
若者	多様な就業環境 の整備 2.39	失業の不安が ない社会づくり 2.46	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.47	安心できる 周産期医療体制 2.54	急病時に診て もらえる医療機関 2.62
夫婦	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.41	多様な就業環境 の整備 2.43	安心できる 周産期医療体制 2.51	失業の不安が ない社会づくり 2.55	自主防災対策の充実 2.58
育児期	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.42	多様な就業環境 の整備 2.45	急病時に診て もらえる医療機関 2.50	高齢者・障害者が 安心できるまちづくり 2.62	自主防災対策の充実 2.62
教育期 前期	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.45	多様な就業環境 の整備 2.45	失業の不安が ない社会づくり 2.59	安心できる 周産期医療体制 2.59	急病時に診て もらえる医療機関 2.60
教育期 後期	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.51	安心できる 周産期医療体制 2.53	多様な就業環境 の整備 2.55	急病時に診て もらえる医療機関 2.63	失業の不安が ない社会づくり 2.65
単身 高齢者	失業の不安が ない社会づくり 2.63	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.67	安心できる 周産期医療体制 2.69	多様な就業環境 の整備 2.70	自主防災対策の充実 2.74
高齢者 夫婦	市町村行政に対する 住民意向の反映 2.60	多様な就業環境 の整備 2.61	失業の不安が ない社会づくり 2.65	安心できる 周産期医療体制 2.65	地域に活力・ 魅力があること 2.66

(注) 網かけは、ライフステージにはあるが「県全体」の下位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位の設定は小数第3位以下も考慮している。

3 県民の仕事に関する意識やニーズについて

3-1 職業

- ◇「正規の職員・従業員」(27.5%)が最も多く、「パート・アルバイト(学生を除く)」、「契約社員・嘱託」、「派遣社員」を合計した「非正規社員等」は18.7%となっています。
- ◇性・年齢別にみると、「男性」については、「20歳代」から「50歳代」では「正規の職員・従業員」が最も多く、「60歳代」以上では「無職」が最も多くなっています。「女性」については、「20歳代」では「正規の職員・従業員」、「30歳代」と「60歳代」では「家事専業・家事手伝い」、「40歳代」と「50歳代」では「パート・アルバイト(学生を除く)」、「70歳以上」では「無職」が最も多くなっています。
- ◇性・婚姻状況別にみると、「男性」では「未婚」、「既婚」ともに「正規の職員・従業員」が最も多くなっていますが、「女性」では「未婚」でのみ「正規の職員・従業員」が最も多く、「既婚」では「家事専業・家事手伝い」が最も多くなっています。「離婚・死別」では男女ともに「無職」が最も多くなっています。

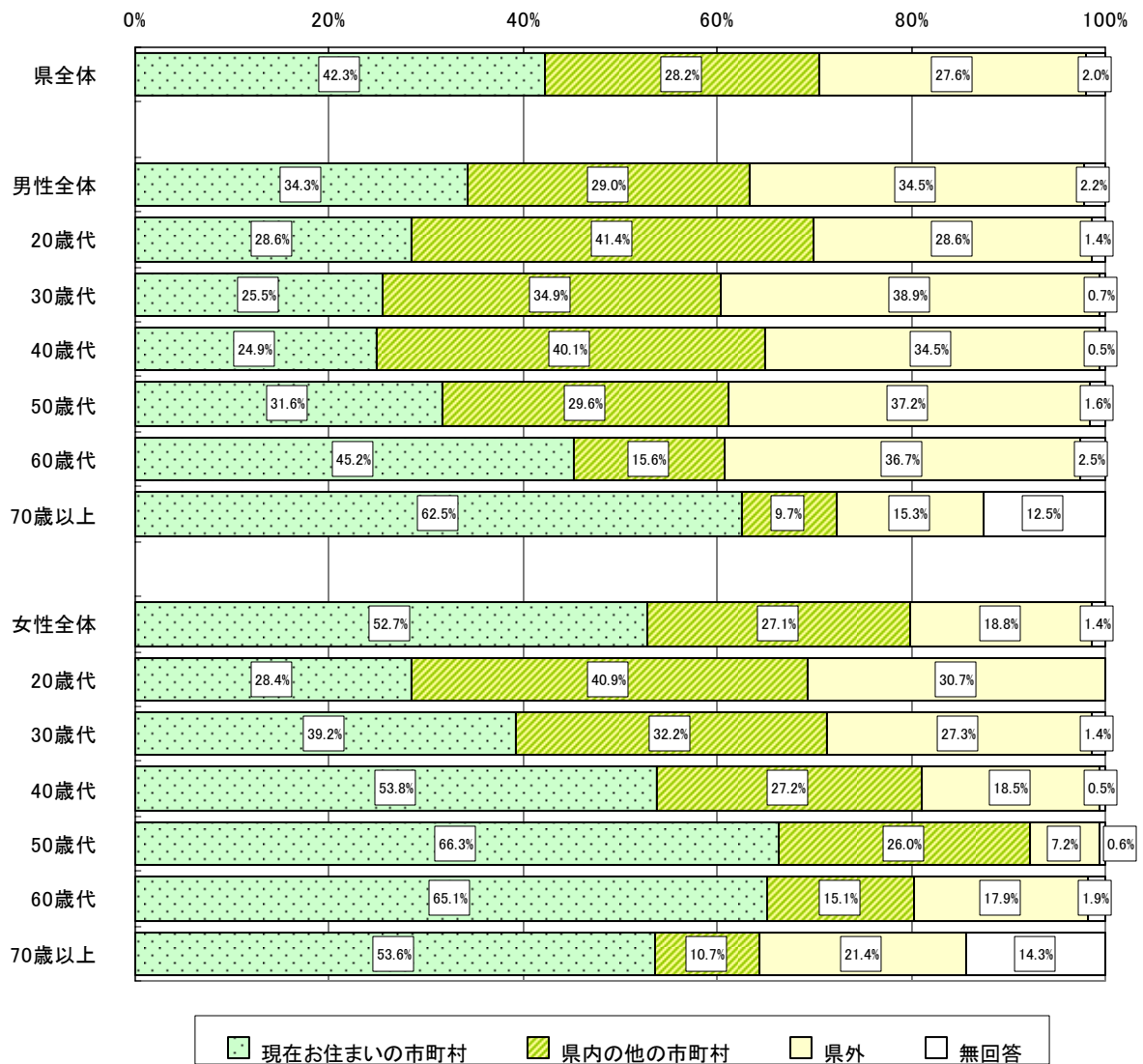
	正規の職員・従業員	家事専業・家事手伝い	無職	パート・アルバイト(学生を除く)	従業員(卸売業・飲食業・製造業・建設業など)	商工・サービス業の自営業・家族	契約社員・嘱託	農林漁業の自営業・家族従業員	その他自営業(開業医・弁護士・宗教家・芸術家・茶華道師匠など)	企業などの役員	学生	派遣社員	その他	無回答
県全体	27.5%	17.9%	17.2%	13.5%	6.6%	4.3%	3.3%	2.7%	1.6%	1.3%	0.9%	0.8%	2.3%	
性別														
男性	41.1%	0.5%	22.4%	5.0%	9.5%	5.7%	4.6%	4.2%	2.8%	1.2%	0.9%	0.7%	1.5%	
女性	16.0%	32.7%	12.8%	20.8%	4.2%	3.1%	2.2%	1.3%	0.6%	1.5%	0.9%	0.9%	2.8%	
男性・年齢別														
20歳代	56.4%	0.0%	8.5%	7.4%	3.2%	7.4%	0.0%	0.0%	0.0%	14.9%	0.0%	0.0%	2.1%	
30歳代	76.9%	0.6%	5.6%	1.9%	6.3%	2.5%	0.6%	1.3%	2.5%	0.0%	1.3%	0.0%	0.6%	
40歳代	88.8%	0.5%	3.4%	2.9%	9.1%	3.8%	1.4%	4.3%	1.9%	0.5%	2.4%	0.5%	0.5%	
50歳代	61.7%	0.4%	7.3%	3.6%	9.1%	3.6%	2.9%	6.6%	3.3%	0.0%	0.4%	0.0%	1.1%	
60歳代	10.3%	0.0%	36.4%	8.1%	14.6%	13.1%	8.1%	3.7%	3.1%	0.0%	0.9%	0.3%	1.2%	
70歳以上	0.5%	1.4%	57.9%	5.1%	7.9%	0.5%	9.8%	5.6%	4.2%	0.0%	0.0%	3.3%	3.7%	
女性・年齢別														
20歳代	40.4%	15.6%	5.7%	14.2%	0.7%	5.7%	0.0%	0.0%	0.0%	14.2%	1.4%	1.4%	0.7%	
30歳代	29.1%	30.5%	2.7%	21.1%	1.8%	7.6%	0.9%	0.4%	0.0%	0.4%	3.1%	0.9%	1.3%	
40歳代	23.4%	27.5%	2.6%	34.6%	4.1%	3.0%	0.7%	1.1%	0.7%	0.4%	0.7%	0.4%	0.7%	
50歳代	14.5%	29.8%	3.9%	34.8%	6.0%	2.1%	4.3%	1.8%	0.4%	0.0%	0.4%	0.7%	1.4%	
60歳代	2.2%	47.2%	16.3%	14.4%	7.5%	2.2%	3.1%	1.6%	1.6%	0.0%	0.6%	0.6%	2.8%	
70歳以上	1.6%	35.1%	43.1%	2.4%	2.4%	0.0%	2.4%	2.0%	0.4%	0.0%	0.0%	1.6%	8.9%	
婚姻状況別														
未婚	47.1%	1.4%	12.2%	11.1%	4.5%	8.2%	1.2%	1.4%	0.7%	7.5%	2.4%	1.9%	0.5%	
既婚	25.2%	22.3%	15.6%	14.1%	7.1%	3.6%	4.0%	2.9%	1.9%	0.2%	0.6%	0.5%	2.0%	
離婚・死別	17.2%	12.2%	34.5%	12.8%	6.1%	3.7%	2.4%	3.0%	1.0%	0.3%	0.7%	1.0%	5.1%	
男性・婚姻別														
未婚	47.8%	1.0%	15.8%	8.6%	5.7%	6.7%	1.4%	1.4%	1.4%	6.2%	1.9%	1.0%	1.0%	
既婚	41.6%	0.2%	22.6%	4.1%	9.9%	5.6%	5.4%	4.6%	3.4%	0.2%	0.5%	0.6%	1.2%	
離婚・死別	21.3%	2.5%	36.3%	5.0%	12.5%	3.8%	3.8%	6.3%	0.0%	0.0%	2.5%	1.3%	5.0%	
女性・婚姻別														
未婚	46.0%	1.9%	8.8%	13.5%	3.3%	9.8%	0.9%	1.4%	0.0%	8.8%	2.8%	2.8%	0.0%	
既婚	10.0%	42.9%	9.2%	23.3%	4.6%	1.6%	2.6%	1.2%	0.6%	0.2%	0.7%	0.5%	2.6%	
離婚・死別	15.9%	15.4%	34.1%	15.9%	3.7%	3.7%	1.9%	1.9%	1.4%	0.5%	0.0%	0.9%	4.7%	

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順(「その他」及び「無回答」を除く)に並べている。
 太字は「その他」及び「無回答」を除いた各属性区分の上位3項目(斜体は同率)を示し、青色の網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、黄色の網掛けは2番目に多い項目を示している。

3-2 勤め先の所在地

◇「現在お住まいの市町村」(42.3%)が最も多く、次いで「県内の他の市町村」(28.2%)、「県外」(27.6%)となっています。

◇性・年齢別にみると、「男性」については、「30歳代」と「50歳代」では「県外」、「20歳代」と「40歳代」では「県内の他の市町村」、「60歳代」以上では「現在お住まいの市町村」で勤めている人が最も多くなっています。「女性」については、「20歳代」と「30歳代」では「県内の他の市町村」や「県外」へ通勤している人が他の年齢層に比べて多くなっていますが、「40歳代」以上では「現在お住まいの市町村」で勤めている人が50%を超えています。



3-3 県外で働いている理由

◇県外で働いている理由をたずねたところ、「希望した会社が県外にあったから」(26.7%)が第1位、「もともと県外で働いていて、県内に転居したから」(26.2%)が僅差で第2位となっています。

◇性・年齢別にみると、「男性」については、「20歳代」と「30歳代」で「希望した会社が県外にあったから」、「40歳代」以上では「もともと県外で働いていて、県内に転居したから」が最も多くなっています。「女性」については、「20歳代」から「50歳代」(「40歳代」は同率)で「希望した会社が県外にあったから」、「60歳代」以上で「もともと県外で働いていて、県内に転居したから」が最も多くなっています。

◇職業別にみると、「正規社員等」と「非正規社員等」では「希望した会社が県外にあったから」、「自営業」と「企業などの役員」では「もともと県外で働いていて、県内に転居したから」が最も多くなっています。

	希望した会社が県外にあったから	もともと県外で働いていて、県内に転居したから	会社から命じられた配属地だから	県内では、希望する職種(業務)が少ないから	県内には、求人が少ないから	県外の会社のほうが賃金などの雇用の条件がよいから	県外の大都市などで働きたいから	交通の便がよく、通勤に便利だから	その他	無回答
県全体	26.7%	26.2%	14.8%	7.4%	6.9%	5.4%	1.3%	1.1%	3.7%	6.5%
性別										
男性	24.1%	30.7%	16.1%	7.7%	7.1%	4.0%	0.3%	1.2%	3.1%	5.6%
女性	32.6%	15.9%	11.6%	6.5%	6.5%	8.7%	3.6%	0.7%	5.1%	8.7%
男性・年齢別										
20歳代	40.0%	5.0%	25.0%	10.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代	32.8%	12.1%	15.5%	10.3%	12.1%	8.6%	0.0%	1.7%	3.4%	3.4%
40歳代	22.1%	30.9%	16.2%	8.8%	8.8%	2.9%	0.0%	1.5%	1.5%	7.4%
50歳代	22.6%	34.4%	19.4%	4.3%	6.5%	3.2%	0.0%	2.2%	2.2%	5.4%
60歳代	17.8%	45.2%	12.3%	8.2%	2.7%	1.4%	1.4%	0.0%	4.1%	6.8%
70歳以上	18.2%	45.5%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	9.1%
女性・年齢別										
20歳代	51.9%	0.0%	11.1%	3.7%	11.1%	7.4%	7.4%	3.7%	0.0%	3.7%
30歳代	41.0%	12.8%	7.7%	12.8%	5.1%	10.3%	5.1%	0.0%	0.0%	5.1%
40歳代	20.6%	20.6%	20.6%	8.8%	2.9%	11.8%	2.9%	0.0%	8.8%	2.9%
50歳代	30.8%	23.1%	7.7%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	15.4%	15.4%
60歳代	15.8%	26.3%	5.3%	0.0%	10.5%	5.3%	0.0%	0.0%	10.5%	26.3%
70歳以上	16.7%	33.3%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
職業別										
農林漁業	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
自営業	11.4%	36.4%	2.3%	15.9%	0.0%	0.0%	2.3%	2.3%	15.9%	13.6%
正規社員等	30.4%	25.3%	18.1%	5.1%	6.5%	5.1%	1.4%	1.0%	1.4%	5.8%
非正規社員等	23.8%	21.9%	12.4%	10.5%	12.4%	9.5%	0.0%	1.0%	2.9%	5.7%
企業などの役員	22.2%	44.4%	5.6%	5.6%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	16.7%	0.0%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順(「その他」及び「無回答」を除く)に並べている。太字は「その他」及び「無回答」を除いた各属性区分の上位3項目(斜体は同率)を示し、青色の網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、黄色の網掛けは2番目に多い項目を示している。「職業別」の「農林漁業」の集計母数は1であり、該当者は「無回答」である。

3-4 今の仕事を選んだ理由

◇「専門的な資格や技術、経験が活かせるから」(30.5%)が最も多く、次いで「やりがいのある仕事だから」(28.8%)、「経営が安定しているから」(14.8%)、「通勤時間が短いから」(12.9%)、「親族などから家業(農林漁業・商工業・会社役員など)を引き継いだから」(10.6%)などとなっています。

◇性・年齢別にみると、「男性」については、「20歳代」から「40歳代」では「やりがいのある仕事だから」、「50歳代」と「60歳代」では「専門的な資格や技術、経験が活かせるから」、「70歳以上」では「親族などから家業(農林漁業・商工業・会社役員など)を引き継いだから」が最も多くなっています。「女性」については、「20歳代」から「40歳代」では「専門的な資格や技術、経験が活かせるから」、「50歳代」では「やりがいのある仕事だから」、「60歳代」以上では「親族などから家業(農林漁業・商工業・会社役員など)を引き継いだから」が最も多くなっています。

◇職業別にみると、「農林漁業」、「自営業」及び「企業などの役員」では「親族などから家業(農林漁業・商工業・会社役員など)を引き継いだから」、「正規社員等」では「やりがいのある仕事だから」、「非正規社員等」では「専門的な資格や技術、経験が活かせるから」が最も多くなっています。

		専門的な資格や技術、経験が活かせるから	やりがいのある仕事だから	経営が安定しているから	通勤時間が短いから	親族などから家業(農林漁業・商工業・会社役員など)を引き継いだから	自分の都合のよい時間に働けるから	家庭の事情(家事・育児・介護等)と両立しやすいから	正社員として働ける会社が見つからなかったから	社会保険・住まいなどの福利厚生が充実しているから	収入がよいから	自ら起業したから	勤務する時間や日数が短いから	簡単な仕事で責任も少ないから	組織に縛られるのは嫌だから	扶養認定などのために就業調整(収入や労働時間の調整)をしたから	体力的に正社員として働けないから	その他
	県全体	30.5%	28.8%	14.8%	12.9%	10.6%	9.8%	8.8%	6.7%	6.3%	4.9%	4.7%	4.2%	2.3%	2.0%	1.4%	0.8%	6.0%
性別	男性	32.8%	30.6%	20.1%	8.6%	12.2%	4.5%	2.9%	8.0%	6.7%	5.2%	6.4%	2.2%	2.2%	3.2%	0.3%	0.7%	5.9%
	女性	27.8%	26.6%	8.0%	18.4%	8.7%	16.6%	16.5%	5.0%	5.9%	4.5%	2.5%	6.7%	2.3%	0.5%	2.7%	1.0%	6.0%
男性・年齢別	20歳代	25.7%	35.7%	18.6%	10.0%	1.4%	4.3%	2.9%	21.4%	12.9%	7.1%	0.0%	1.4%	4.3%	1.4%	0.0%	0.0%	5.7%
	30歳代	33.6%	38.9%	22.1%	13.4%	8.7%	2.7%	3.4%	6.7%	8.1%	4.7%	1.3%	0.7%	0.7%	1.3%	0.0%	0.7%	7.4%
	40歳代	33.5%	35.5%	27.9%	9.6%	6.6%	1.5%	3.6%	8.6%	7.1%	8.6%	2.5%	1.0%	2.5%	2.5%	0.0%	1.5%	5.6%
	50歳代	36.8%	32.8%	24.4%	7.6%	9.2%	3.2%	2.0%	7.2%	7.6%	6.0%	7.6%	0.8%	1.2%	3.2%	0.4%	0.0%	5.2%
	60歳代	34.7%	19.6%	11.6%	7.0%	21.1%	9.0%	3.0%	6.5%	4.5%	2.5%	11.1%	5.5%	4.0%	5.5%	1.0%	1.5%	4.5%
	70歳以上	16.7%	18.1%	4.2%	2.8%	30.8%	8.3%	2.8%	2.8%	0.0%	0.0%	16.7%	5.6%	1.4%	4.2%	0.0%	0.0%	9.7%
	女性・年齢別	20歳代	43.2%	39.8%	12.5%	10.2%	1.1%	10.2%	4.5%	10.2%	10.2%	9.1%	0.0%	2.3%	1.1%	1.1%	1.1%	0.0%
30歳代	37.8%	35.7%	11.9%	18.2%	2.1%	11.2%	14.0%	8.4%	9.8%	4.2%	0.0%	2.8%	1.4%	1.4%	2.1%	0.0%	4.9%	
40歳代	28.3%	22.3%	8.2%	20.7%	6.5%	22.8%	24.5%	3.8%	4.3%	4.9%	1.6%	3.8%	1.6%	0.0%	4.3%	1.6%	7.6%	
50歳代	23.2%	24.3%	7.2%	23.2%	9.4%	19.9%	19.3%	3.3%	5.5%	2.2%	2.2%	13.3%	2.2%	0.0%	3.9%	1.7%	3.3%	
60歳代	10.4%	17.9%	2.8%	17.0%	20.8%	13.2%	14.2%	2.8%	1.9%	5.7%	6.6%	10.4%	4.7%	0.9%	0.9%	0.9%	10.4%	
70歳以上	21.4%	17.9%	0.0%	7.1%	25.0%	17.9%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	3.6%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	
職業別	農林漁業	4.3%	10.9%	0.0%	1.1%	64.1%	14.1%	4.3%	0.0%	0.0%	2.2%	8.7%	1.1%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	3.3%
	自営業	28.7%	24.0%	2.3%	1.9%	31.4%	8.1%	6.2%	3.1%	0.4%	0.8%	20.9%	0.4%	1.6%	7.0%	0.0%	0.0%	6.6%
	正規社員等	39.4%	40.7%	27.3%	12.2%	2.1%	1.8%	3.3%	5.5%	10.6%	7.5%	0.3%	0.7%	0.5%	0.8%	0.1%	0.0%	6.8%
	非正規社員等	23.6%	16.8%	6.0%	22.4%	0.8%	22.4%	19.5%	12.0%	4.6%	3.9%	0.0%	12.0%	5.8%	1.4%	4.3%	2.7%	5.0%
	企業などの役員	24.4%	28.9%	4.4%	2.2%	40.0%	0.0%	4.4%	0.0%	0.0%	2.2%	31.1%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.4%

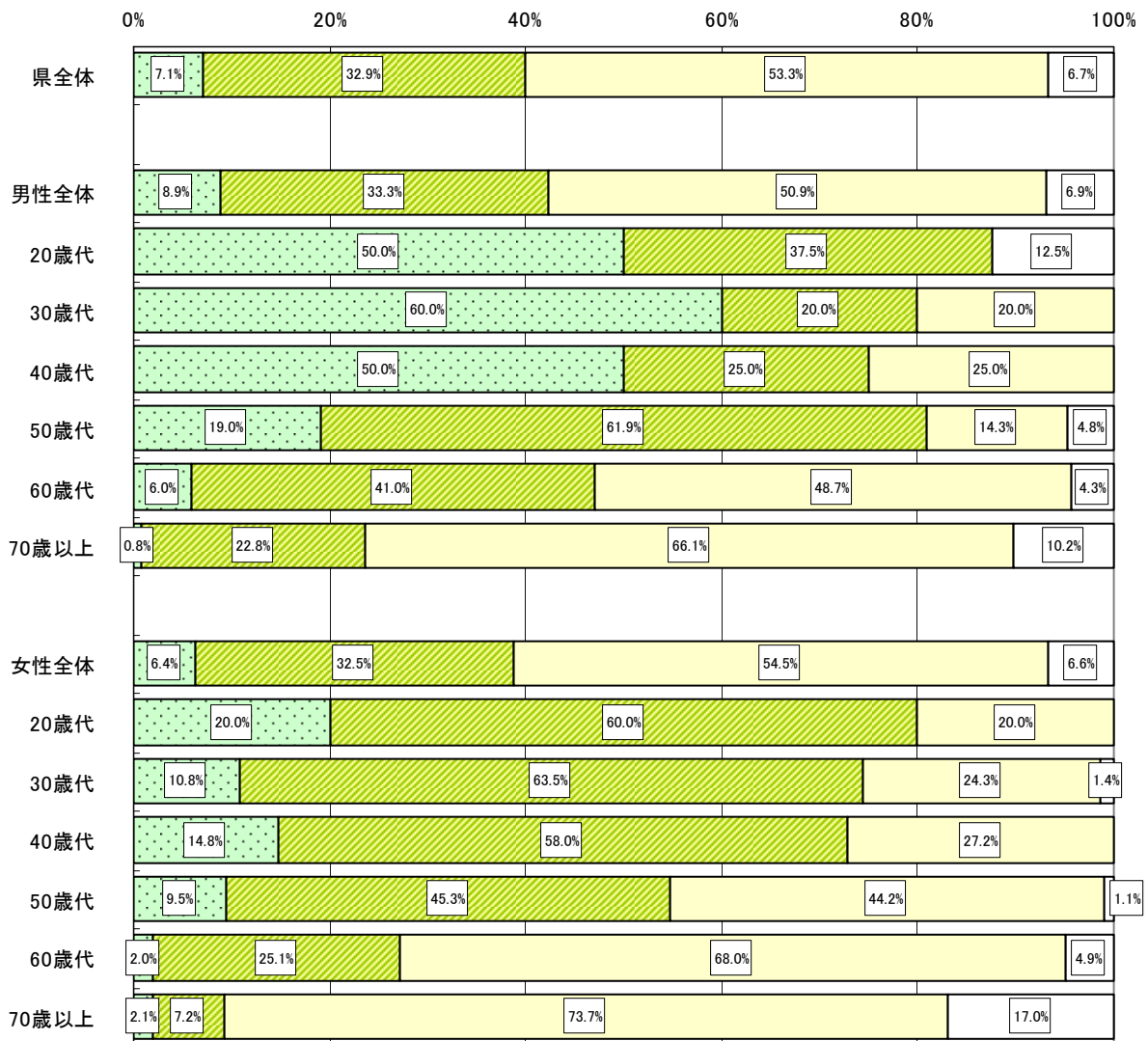
(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順(「その他」を除く)に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目(斜体は同率)を示し、青色の網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、黄色の網掛けは2番目に多い項目を示している。

3-5 働いていない人の求職に対する意向

◇「働く気はない」と回答した人が53.3%であるのに対し、「働く意思がある」（「どうしても働きたい」＋「どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい」）人は40.0%となっています。

◇性・年齢別にみると、「男性」については、「20歳代」から「40歳代」で50%以上の人が「どうしても働きたい」と回答しており、「50歳代」以下では75%以上の人が「働く意思がある」と回答しています。一方、「女性」については、「どうしても働きたい」と回答した人が最も多い「20歳代」でも20.0%に留まっていますが、「50歳代」以下では「働く意思がある」人は50%を超えています。



どうしても働きたい

 どうしても働きたいわけではないが、良い条件の仕事があれば働きたい

 働く気はない

 無回答

3-6 求職者が仕事を選ぶ際に重視する条件

◇「働く時間の融通がききやすい」(63.9%) が特に多く、次いで「通勤時間が短い」(37.4%)、「希望の収入額が得られる」(17.3%)、「専門的な資格や技術、経験が活かせる」(15.5%) などとなっています。

◇性・年齢別にみると、「男性」については、「20歳代」と「30歳代」では「正規職員・従業員として働ける」、「40歳代」では「正規職員・従業員として働ける」と「希望の収入額が得られる」が同率、「50歳代」以上では「働く時間の融通がききやすい」が最も多くなっています。「女性」については、全ての年齢層で「働く時間の融通がききやすい」が最も多くなっています。

上位3項目を性別で比較すると、「男性」では「正規職員・従業員として働ける」(「20歳代」から「40歳代」(同率)の第1位など)、「女性」では「仕事先の育児などへの支援制度が整っている」(「20歳代」の第2位、「30歳代」の第3位)といったように性別で重視する条件が異なることがうかがえます。

(上段：平成23年度結果、下段：平成21年度からの増減値)

		働く時間の融通がききやすい	通勤時間が短い	希望の収入額が得られる	専門的な資格や技術、経験が活かせる	正規職員・従業員として働ける	仕事先の育児などへの支援制度が整っている	（育児・介護などの社会的サポートが）	仕事先の介護などへの支援制度が整っている	その他
県全体		63.9% ▲5.8	37.4% 0.8	17.3% ▲9.1	15.5% ▲0.9	9.0% ▲3.1	6.2% ▲3.1	2.8% ▲5.5	2.1% ▲1.0	4.6% ▲0.1
性別	男性	49.6% 9.5	24.4% 0.9	17.1% ▲25.4	23.6% 4.5	17.1% ▲20.2	0.0% 0.0	0.0% ▲1.6	0.8% ▲1.6	8.9% 3.7
	女性	70.3% ▲8.3	43.3% 2.1	17.5% ▲4.3	11.4% ▲4.4	5.3% 0.8	9.1% ▲3.3	4.2% ▲6.5	2.7% ▲0.5	2.7% ▲1.4
男性・年齢別	20歳代	42.9% 24.4	14.3% ▲6.8	14.3% ▲30.5	28.6% 23.3	57.1% ▲11.3	0.0% 0.0	0.0% 0.0	0.0% ▲5.3	14.3% 14.3
	30歳代	12.5% 12.5	37.5% 26.4	12.5% ▲76.4	0.0% 0.0	62.5% ▲37.5	0.0% 0.0	0.0% 0.0	0.0% 0.0	25.0% 25.0
	40歳代	33.3% 1.2	0.0% 0.0	50.0% ▲14.3	0.0% ▲14.3	50.0% ▲17.9	0.0% 0.0	0.0% ▲14.3	0.0% 0.0	0.0% ▲7.1
	50歳代	52.9% 12.3	17.6% ▲1.1	11.8% ▲41.4	17.6% 17.6	11.8% ▲28.9	0.0% 0.0	0.0% 0.0	0.0% ▲12.5	11.8% 8.6
	60歳代	56.4% ▲6.3	32.7% ▲0.2	18.2% ▲19.2	23.6% ▲2.7	9.1% ▲12.9	0.0% 0.0	0.0% 0.0	1.8% 1.8	1.8% 1.8
	70歳以上	50.0% 25.5	16.7% ▲9.9	13.3% ▲23.4	36.7% 2.0	6.7% ▲3.5	0.0% 0.0	0.0% 0.0	0.0% 0.0	16.7% ▲1.7
	女性・年齢別	20歳代	62.5% 0.4	8.3% ▲33.4	25.0% 3.6	4.2% ▲19.1	0.0% ▲15.5	37.5% 33.6	4.2% ▲13.3	4.2% 4.2
30歳代		76.4% ▲3.1	38.2% 7.3	7.3% ▲14.5	10.9% ▲4.3	3.6% ▲0.1	23.6% ▲6.8	10.9% ▲6.8	0.0% 0.0	1.8% 0.2
40歳代		81.4% ▲3.0	50.8% 4.5	22.0% ▲4.8	8.5% ▲4.2	1.7% 0.7	1.7% ▲7.6	3.4% 1.0	6.8% 0.4	1.7% ▲1.2
50歳代		63.5% ▲13.1	57.7% 8.5	17.3% 0.1	13.5% ▲10.8	9.6% 4.1	1.9% 1.9	1.9% ▲11.4	0.0% ▲4.7	1.9% ▲3.5
60歳代		72.7% ▲16.0	50.9% ▲6.8	16.4% ▲1.9	10.9% 9.5	5.5% 5.5	0.0% 0.0	1.8% 1.8	3.6% 3.6	5.5% ▲3.0
70歳以上		38.9% ▲36.1	16.7% ▲1.2	27.8% 6.3	27.8% 9.9	16.7% 16.7	0.0% 0.0	0.0% 0.0	0.0% ▲21.4	0.0% ▲25.0

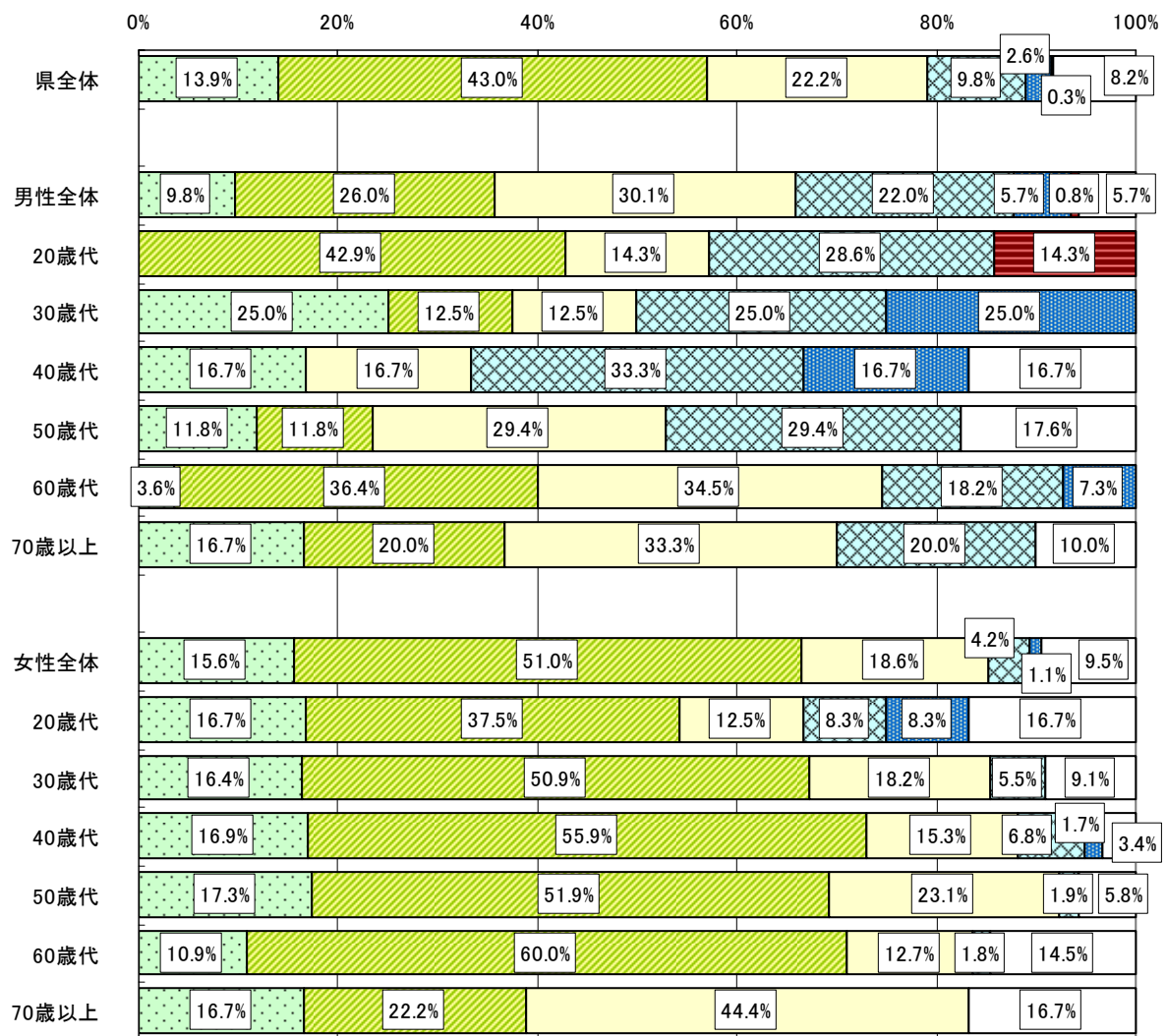
(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順(「その他」を除く)に並べている。

太字は「その他」を除いた平成23年度の結果の各属性区分の上位3項目を示し、下線を付した数値は最多項目を、斜体は同率であることを示している。また、網かけは平成21年度よりも5ポイント以上増えた項目を示している。男性の各年齢層の集計母数は、「20歳代」が7件、「30歳代」が8件、「40歳代」が6件、「50歳代」が17件、「60歳代」が55件、「70歳以上」が30件で、「50歳代」以下では就業者が多いために集計母数に著しい偏りが生じている。

3-7 求職者が希望する通勤時間

◇「片道15～30分未満」(43.0%)が最も多く、次いで「片道30～45分未満」(22.2%)、「片道0～15分未満」(13.9%)などとなっています。

◇性・年齢別にみると、「男性」については「30歳代」、「40歳代」では「片道1時間～1時間半未満」以上と回答した人が、他の年齢層に比べて多くなっており、通勤時間が長くて構わないと考えている人が多いことが分かります。一方、「女性」については、「20歳代」で長い通勤時間でも構わないと考えている人が多少はいるものの、多くの人々が「片道15～30分未満」と回答しており、「男性」に比べ短い通勤時間を希望しています。



片道0～15分未満
 片道15～30分未満
 片道30～45分未満
 片道45～60分未満
 片道1時間～1時間半未満
 片道1時間半～2時間未満
 片道2時間以上
 無回答

3-8 働く気がない理由

◇「自分や家族に年金による収入があるから」(26.3%)が最も多く、次いで「健康上の理由から」(16.6%)、「自分の年齢にあう仕事がないから」(10.4%)などとなっています。

◇性・年齢別にみると、「男性」については、「30歳代」では「健康上の理由から」・「勤務時間、賃金など希望にあう仕事がないから」、「40歳代」では「健康上の理由から」、「50歳代」では「自分や家族に年金による収入があるから」・「健康上の理由から」・「介護のため仕事が続けられないから」、「60歳代」以上では「自分や家族に年金による収入があるから」が多くなっています。
 「女性」については、「20歳代」と「30歳代」では「育児のため仕事が続けられないから」、「40歳代」では「健康上の理由から」、「50歳代」では「介護のため仕事が続けられないから」、「60歳代」以上では「自分や家族に年金による収入があるから」が最も多くなっています。

		自分や家族に年金による収入があるから	健康上の理由から	自分の年齢にあう仕事がないから	家事に専念すべきだと思うから	家族が働いていて収入があるから	介護のため仕事が続けられないから	育児のため仕事が続けられないから	自分や家族に生活できる財産があるから	自分の知識・能力にあう仕事がないから	勤務時間、賃金など希望にあう仕事がないから	特に理由はない	その他	無回答
県全体		26.3%	16.6%	10.4%	7.1%	5.4%	5.0%	3.3%	2.3%	0.8%	0.6%	4.4%	8.5%	9.3%
性別	男性	38.5%	20.9%	12.2%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	2.7%	0.7%	1.4%	4.1%	7.4%	10.8%
	女性	21.4%	14.9%	9.8%	9.8%	7.6%	6.5%	4.6%	2.2%	0.8%	0.3%	4.6%	8.9%	8.7%
男性・年齢別	20歳代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	50.9%	14.0%	7.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	3.5%	1.8%	1.8%	0.0%	10.5%	8.8%
	70歳以上	32.1%	23.8%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	6.0%	6.0%	13.1%
女性・年齢別	20歳代	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	16.7%	0.0%	66.7%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%
	40歳代	0.0%	22.7%	0.0%	13.6%	18.2%	0.0%	9.1%	0.0%	4.5%	4.5%	4.5%	0.0%	22.7%
	50歳代	4.8%	11.9%	9.5%	7.1%	16.7%	19.0%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	9.5%	9.5%	9.5%
	60歳代	26.8%	12.3%	13.0%	12.3%	6.5%	9.4%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	5.8%	5.8%	6.5%
	70歳以上	27.3%	18.9%	9.8%	8.4%	2.8%	2.1%	0.0%	3.5%	0.7%	0.0%	2.8%	14.7%	9.1%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順(「その他」及び「無回答」を除く)に並べている。

太字は「その他」及び「無回答」を除いた各属性区分の上位3項目(斜体は同率)を示し、青色の網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、黄色の網掛けは2番目に多い項目を示している。

男性の各年齢層の集計母数は、「20歳代」が0件、「30歳代」が2件、「40歳代」が2件、「50歳代」が3件、「60歳代」が57件、「70歳以上」が84件で、「50歳代」以下では「働く意思がある」人が多いために集計母数に著しい偏りが生じている。

3-9 行政が取り組むべき雇用・就労支援対策

◇最も重要度が高いのは「県内企業を活性化し、雇用の維持や拡大を図る」で、次いで「介護についての社会的なサポート（社会福祉施設など）を充実させる」、「企業を誘致し、新しい雇用の場を創る」となっています。

◇年齢別に重要度上位5項目をみると、「40歳代」以上では「県全体」と同様「県内企業の活性化」「介護サポートの充実」などが上位となっていますが、「20歳代」と「30歳代」では「育児・介護と仕事を両立できる職場づくり」、「育児サポートの充実」などが上位となっています。また、重要度上位5項目で、個別の年齢にはあるが「県全体」にはない項目は、「農林漁業・医療・福祉などの人材確保」（「20歳代」・「60歳代」の第5位、「40歳代」・「50歳代」・「70歳以上」の第4位）となっています。

順位	項目番号	項目	重要度
1	1	県内企業を活性化し、雇用の維持や拡大を図る	4.37
2	5	介護についての社会的なサポート(社会福祉施設など)を充実させる	4.27
3	2	企業を誘致し、新しい雇用の場を創る	4.21
4	6	育児や介護などと仕事が両立できる職場づくりを企業に働きかける	4.16
5	4	育児についての社会的なサポート(保育所など)を充実させる	4.16
6	3	農林漁業や医療、福祉などの分野で不足している人材を確保する	4.14
7	7	仕事に関する相談支援を充実させる	3.81
8	9	インターンシップ制度(生徒や学生が仕事の体験をすること)などで、若者の職業観を育てる	3.80
9	8	能力の向上・資格取得のための支援を充実する	3.77
項目全体の平均			4.08

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
県全体	県内企業の活性化 4.37	介護サポートの充実 4.27	企業誘致 4.21	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.16	育児サポートの充実 4.16
20歳代	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.42	育児サポートの充実 4.34	県内企業の活性化 4.31	介護サポートの充実 4.23	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.22
30歳代	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.35	育児サポートの充実 4.31	県内企業の活性化 4.28	介護サポートの充実 4.27	企業誘致 4.13
40歳代	県内企業の活性化 4.34	介護サポートの充実 4.22	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.14	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.13	企業誘致 4.12
50歳代	県内企業の活性化 4.42	介護サポートの充実 4.29	企業誘致 4.27	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.20	育児・介護と仕事を 両立できる職場づくり 4.12
60歳代	県内企業の活性化 4.43	企業誘致 4.29	介護サポートの充実 4.27	育児サポートの充実 4.12	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.11
70歳 以上	県内企業の活性化 4.35	介護サポートの充実 4.30	企業誘致 4.23	農林漁業・医療・福祉 などの人材確保 4.12	育児サポートの充実 4.07

(注) 網かけは、年齢にはあるが「県全体」の上位5項目にはない項目。
点数表記は小数第2位までだが、順位決定には小数第3位以下も考慮している。

4 県民のまちづくりに関する意識やニーズについて

4-1 地域のまちづくりの評価

- ◇県全体の評価を高い順に並べると、肯定的評価（3.01以上）は7項目で、「自然環境が豊かである」の評価が最も高く、次いで「日用品の買物が便利である」、「ショッピングセンターで買い物を楽しむことができる」となっています。一方、否定的評価（2.99以下）は6項目で、最も評価が低いのは「映画館や図書館、美術館などの文化施設が整っている」で、次いで「親しみやすい水辺がある」、「飲食店や娯楽施設が充実している」となっています。
- ◇平成21年度結果に比べて評価が低下した項目は、「競技場やグラウンド、プールなどの運動施設が整っている」、「映画館や図書館、美術館などの文化施設が整っている」となっています。
- ◇「地域4（東部）」、「地域5（南東部）」及び「地域6（南西部）」で、「県全体」の評価を下回っている項目が多くなっています。

順位	項目番号	項目	評価		
			H23	H21	H23-H21
1	13	自然環境が豊かである	3.66	3.64	0.02
2	1	日用品の買物が便利である	3.60	3.52	0.08
3	2	ショッピングセンターで買い物を楽しむことができる	3.41	3.29	0.12
4	11	ごみや下水が適正に処理されている	3.40	3.25	0.15
5	4	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所などの医療施設が整っている	3.14	3.04	0.10
6	10	生活道路が整備されている	3.13	3.05	0.08
7	7	公園や緑地が整備されている	3.06	3.05	0.01
8	5	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設が整っている	2.96	2.82	0.14
9	8	競技場やグラウンド、プールなどの運動施設が整っている	2.81	2.81	▲0.00
10	6	子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設が整っている	2.80	2.76	0.04
11	3	飲食店や娯楽施設が充実している	2.70	2.58	0.12
12	12	親しみやすい水辺がある	2.57	2.31	0.26
13	9	映画館や図書館、美術館などの文化施設が整っている	2.56	2.59	▲0.03

(注) 集計結果は平成23年度の結果が大きい項目順に並べている。点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。網かけは平成21年度より評価が低下したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、平成21年度と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

順位	項目番号	項目	県全体	地域1	地域2	地域3	地域4	地域5	地域6
				(北部)	(西部)	(中部)	(東部)	(南東部)	(南西部)
1	13	自然環境が豊かである	3.66	3.62	3.60	3.44	3.87	4.31	4.19
2	1	日用品の買物が便利である	3.60	3.74	3.76	3.88	3.07	2.35	2.71
3	2	ショッピングセンターで買い物を楽しむことができる	3.41	3.57	3.34	3.73	2.95	2.18	2.52
4	11	ごみや下水が適正に処理されている	3.40	3.56	3.34	3.26	3.15	3.26	3.09
5	4	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所などの医療施設が整っている	3.14	3.22	3.20	3.28	2.88	2.73	2.38
6	10	生活道路が整備されている	3.13	3.19	3.14	3.13	3.17	2.91	2.75
7	7	公園や緑地が整備されている	3.06	3.10	3.30	3.17	2.77	2.60	2.63
8	5	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設が整っている	2.96	3.06	3.07	3.11	2.77	2.13	2.26
9	8	競技場やグラウンド、プールなどの運動施設が整っている	2.81	2.75	3.11	2.99	2.58	2.52	2.44
10	6	子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設が整っている	2.80	2.85	2.88	2.88	2.77	2.39	2.37
11	3	飲食店や娯楽施設が充実している	2.70	2.81	2.75	2.99	2.27	1.74	1.90
12	12	親しみやすい水辺がある	2.57	2.50	2.51	2.43	2.43	3.54	3.16
13	9	映画館や図書館、美術館などの文化施設が整っている	2.56	2.66	2.73	2.79	2.12	1.64	1.73

(注) 集計結果は「県全体」の結果が大きい項目順に並べている。点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。網かけは「県全体」より評価が低いことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、「県全体」と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

4-2 地域で充実してほしい施設

◇「総合病院など救急時の対応も可能な医療施設」(46.1%)が最も多く、次いで「日常の買い物に便利な店舗や商店街」(25.0%)、「社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設)」(21.0%)、「気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所」(19.6%)などとなっています。

◇地域別にみると、全ての地域で「総合病院など救急時の対応も可能な医療施設」が最も多くなっています。第2位は多くの地域で「県全体」と同じとなっていますが、「地域2(西部)」では「買い物を楽しめるショッピングセンター」、「地域3(中部)」では、「社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設)」となっています。

◇居住地域の状況別にみると、「県全体」の上位3項目と大きな違いはありませんが、「住宅地域」で「緑地や公園、広場などの憩いの場」、「農村地域」で「気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所」(同率)が第2位となっています。

	総合病院など救急時の対応も可能な医療施設	日常の買い物に便利な店舗や商店街	社会福祉施設(子どもや高齢者、障害者の福祉を充実させるための施設)	気軽に健康相談や診療を受けられる病院や診療所	買い物を楽しめるショッピングセンター	緑地や公園、広場などの憩いの場	映画館、美術館など文化・芸術に親しめる施設	スポーツやレクリエーションを楽しめる施設	飲食店や娯楽施設	その他	
県全体	46.1%	25.0%	21.0%	19.6%	15.6%	15.3%	13.5%	10.0%	9.0%	3.3%	
地域別	地域1(北部)	44.9%	25.3%	20.3%	19.5%	15.1%	16.1%	16.9%	10.8%	9.1%	3.7%
	地域2(西部)	42.4%	23.3%	18.3%	14.1%	23.7%	14.1%	15.3%	8.4%	10.7%	3.1%
	地域3(中部)	48.5%	20.0%	22.5%	19.9%	15.2%	18.9%	10.6%	11.2%	8.1%	3.1%
	地域4(東部)	47.7%	31.8%	19.1%	22.3%	14.5%	12.3%	11.4%	8.6%	10.0%	3.6%
	地域5(南東部)	44.6%	33.3%	25.5%	22.1%	12.7%	5.9%	4.4%	5.4%	6.4%	2.0%
	地域6(南西部)	55.0%	28.0%	23.0%	22.0%	12.0%	9.0%	7.0%	8.0%	11.0%	3.0%
居住地域の状況別	商業地域	44.2%	25.2%	21.8%	20.4%	8.2%	17.7%	18.4%	13.6%	6.1%	6.1%
	住宅地域	42.7%	21.2%	20.0%	16.9%	18.6%	21.8%	14.7%	10.2%	10.7%	3.1%
	郊外の住宅地域	46.6%	24.1%	19.8%	17.9%	15.5%	14.4%	16.7%	11.9%	9.4%	3.5%
	農村地域	49.9%	25.2%	21.4%	25.2%	15.0%	12.1%	11.2%	9.3%	10.0%	2.4%
	山間地域	50.3%	35.5%	24.3%	22.4%	13.0%	5.7%	5.7%	5.3%	4.8%	3.4%
	その他	52.6%	21.1%	31.6%	10.5%	5.3%	10.5%	26.3%	15.8%	5.3%	10.5%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順(「その他」を除く)に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、青色の網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、黄色の網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

4-3 不安に感じる犯罪

◇「空き巣、忍び込み等の侵入犯罪」(57.8%)が最も多く、次いで「殺人、強盗、放火等の凶悪事件」(40.4%)、「携帯電話やインターネットを利用した犯罪」(24.3%)となっています。

◇ライフステージ別にみると、上位3項目は「県全体」の傾向と概ね同様ですが、「育児期」と「教育期前期」で「子どもに対する声かけやつきまとい」が第1位、「単身高齢者」と「高齢者夫婦」で「オレオレ詐欺等のいわゆる『振り込め詐欺』」が第3位となるなど、ライフステージによって特徴的な意見が見られます。

◇性別にみると、男女とも上位3項目までが「県全体」と同じとなっています。

◇年齢別にみると、県全体と概ね同様の結果となっていますが、「子どもに対する声かけやつきまとい」が「30歳代」の第2位と「40歳代」の第3位、「オレオレ詐欺等のいわゆる『振り込め詐欺』」が「70歳以上」の第3位に挙げられるなど、年齢層によって異なる意向がうかがえます。

		空き巣、忍び込み等の侵入犯罪	殺人、強盗、放火等の凶悪事件	携帯電話やインターネットを利用した犯罪	子どもに対する声かけやつきまとい	少年による犯罪	オレオレ詐欺等のいわゆる「振り込め詐欺」	路上でのすりやひったくり	女性に対する痴漢行為やストーカー	その他
県全体		57.8%	40.4%	24.3%	16.9%	14.5%	11.6%	10.0%	8.6%	1.9%
ライフステージ別	若者	45.4%	49.8%	23.3%	19.8%	11.9%	4.4%	9.7%	20.7%	1.8%
	夫婦	67.5%	44.6%	23.3%	8.2%	16.1%	10.5%	14.8%	3.9%	1.6%
	育児期	39.6%	39.6%	11.2%	67.2%	18.7%	4.5%	4.5%	6.0%	3.0%
	教育期前期	46.2%	38.0%	26.6%	52.2%	14.5%	2.6%	4.7%	7.1%	1.3%
	教育期後期	56.3%	43.0%	30.7%	14.7%	14.0%	6.3%	6.0%	18.3%	1.0%
	単身高齢者	59.0%	36.1%	12.0%	4.8%	6.0%	22.9%	18.1%	4.8%	4.8%
	高齢者夫婦	67.0%	31.5%	22.1%	3.1%	11.8%	24.9%	14.6%	2.5%	1.9%
性別	男性	58.5%	42.5%	26.6%	14.2%	19.4%	11.9%	6.1%	5.4%	2.0%
	女性	57.4%	38.7%	22.3%	19.2%	10.5%	11.4%	13.3%	11.4%	1.7%
年齢別	20歳代	46.8%	50.6%	23.2%	19.0%	11.8%	4.2%	9.3%	20.3%	1.7%
	30歳代	50.7%	38.1%	20.1%	40.7%	15.7%	5.2%	9.4%	9.1%	1.6%
	40歳代	51.2%	41.7%	28.3%	28.9%	17.0%	4.4%	7.3%	11.7%	1.5%
	50歳代	61.9%	44.5%	26.6%	10.1%	15.8%	8.8%	9.0%	9.5%	2.2%
	60歳代	63.5%	39.3%	26.2%	8.7%	15.1%	17.2%	9.4%	3.9%	1.2%
	70歳以上	63.7%	32.6%	18.9%	3.2%	10.3%	23.2%	15.9%	4.5%	3.2%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順(「その他」を除く)に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、青色の網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、黄色の網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

4-4 日頃から行っている災害等への備え

◇「消火器などの用意」(45.0%) が最も多く、次いで「水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄」(37.6%)、「災害時における家族との連絡方法の確認」(28.9%)、「家具などの転倒防止」(23.3%) などとなっています。

◇ライフステージ別にみると、「県全体」の傾向と概ね同様ですが、「若者」では「特に備えはしていない」が26.9%で第3位となっており、他のライフステージに比べて多くなっています。

◇年齢別にみると、「県全体」の傾向と概ね同様ですが、「20歳代」では「特に備えはしていない」が26.2%で第3位となっており、「30歳代」も含め「特に備えをしていない」人は低い年齢層で多くなっています。

◇平成21年度と比較して、「県全体」で5ポイント以上増加した項目は「消火器などの用意」、「災害時における家族との連絡方法の確認」及び「避難経路の確認」となっています。

(上段：平成23年度結果、下段：平成21年度からの増減値)

	消火器などの用意	水、食料、救急医薬品などの防災用品の備蓄	災害時における家族との連絡方法の確認	家具などの転倒防止	避難経路の確認	地域や学校・職場などへの参加する防災訓練などの実施	特に備えはしていない	耐火金庫に貴重品などを保管	け崩れ(土砂災害)の危険箇所の確認	地域での浸水の危険性などの確認	住宅の耐震診断や耐震補強工事	点検	ブロック塀や門柱などの安全性の確認	ガラスの飛散防止	その他
県全体	45.0%	37.6%	28.9%	23.3%	21.9%	16.8%	16.5%	10.7%	9.0%	8.7%	8.4%	5.3%	4.5%	1.0%	-
若者	35.2%	31.3%	23.8%	16.7%	22.0%	13.2%	26.9%	7.5%	6.6%	5.7%	7.9%	5.3%	4.4%	0.9%	-
夫婦	40.7%	37.7%	31.1%	23.3%	22.6%	14.1%	16.1%	14.4%	7.5%	8.5%	9.2%	4.3%	4.6%	1.3%	-
育児期	26.9%	35.1%	22.4%	20.9%	22.4%	14.2%	21.6%	4.5%	5.2%	9.7%	11.9%	0.7%	5.2%	0.7%	-
教育期前期	34.6%	42.5%	28.2%	25.6%	20.3%	16.6%	15.0%	5.0%	6.3%	5.8%	10.6%	2.6%	4.0%	0.3%	-
教育期後期	46.3%	39.0%	28.7%	29.3%	20.7%	21.3%	16.7%	9.3%	5.7%	6.3%	8.3%	5.3%	6.7%	0.3%	-
単身高齢者	44.6%	30.1%	19.3%	14.5%	24.1%	8.4%	19.3%	6.0%	10.8%	10.8%	7.2%	6.0%	6.0%	2.4%	-
高齢者夫婦	57.6%	38.0%	33.0%	27.4%	24.0%	16.2%	9.7%	17.4%	11.5%	11.2%	9.3%	6.9%	5.0%	2.5%	-
20歳代	35.4%	31.2%	24.5%	17.3%	22.4%	13.1%	26.2%	7.2%	6.3%	5.5%	7.6%	5.1%	4.2%	0.8%	-
30歳代	29.0%	37.3%	22.2%	24.5%	19.8%	16.2%	23.0%	4.2%	7.6%	7.8%	10.7%	2.1%	5.5%	0.8%	-
40歳代	41.9%	39.0%	27.5%	23.1%	21.8%	15.7%	16.1%	8.0%	6.3%	6.5%	7.8%	2.7%	4.0%	0.4%	-
50歳代	48.3%	37.7%	28.4%	22.6%	19.6%	21.4%	16.9%	11.0%	8.6%	7.2%	6.6%	4.8%	4.1%	0.5%	-
60歳代	49.5%	37.8%	33.7%	23.2%	23.7%	15.6%	13.7%	15.0%	11.5%	10.1%	8.4%	5.9%	4.1%	1.2%	-
70歳以上	55.8%	39.5%	32.6%	26.4%	23.6%	16.5%	10.3%	14.4%	11.6%	13.1%	9.7%	10.1%	5.4%	1.9%	-

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順(「その他」を除く)に並べている。

太字は「その他」を除いた平成23年度の結果の各属性区分の上位3項目を示し、下線を付した数値は最多項目を、斜体は同率であることを示している。また、網かけは平成21年度よりも5ポイント以上増えた項目を示している。

4-5 地域の生活環境の変化に対する評価

(1) 「県全体」の評価及び経年比較

- ◇「県全体」の評価が高い順に並べると、改善したと評価（3.01以上）された項目は1項目で、「緑の豊かさ」となっています。一方、悪化したと評価（2.99以下）された項目は4項目あり、「周辺の静けさ」の評価が最も低く、次いで「川や池のきれいさ」、「景観の美しさ」などとなっています。
- ◇平成21年度と比べると「川や池のきれいさ」に対する評価が僅かに下がりましたが、その他の項目では向上しています。

順位	項目番号	項目	評価		
			H23	H21	H23-H21
1	4	緑の豊かさ	3.03	3.00	0.03
2	1	空気のきれいさ	2.98	2.93	0.05
3	5	景観の美しさ	2.96	2.95	0.01
4	2	川や池のきれいさ	2.88	2.89	▲ 0.00
5	3	周辺の静けさ	2.82	2.75	0.07

(注) 集計結果は平成23年度の結果が大きい項目順に並べている。点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。網かけは平成21年度より評価が低下したことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、平成21年度と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

(2) 「県全体」の評価及び居住地域の状況別での比較

- ◇「県全体」の評価を下回っている項目が多いのは、「商業地域」、「住宅地域」、「郊外の住宅地」及び「その他」となっています。
- ◇「商業地域」、「住宅地域」、「郊外の住宅地」及び「その他」では、全ての項目が悪化したと評価（2.99以下）されているのに対し、「農村地域」と「山間地域」では改善したと評価（3.01以上）された項目が多くなっています。

順位	項目番号	項目	県全体	商業地域	住宅地域	郊外の住宅地域	農村地域	山間地域	その他
1	4	緑の豊かさ	3.03	2.81	2.92	2.96	3.16	3.35	2.63
2	1	空気のきれいさ	2.98	2.81	2.95	2.90	3.07	3.19	2.72
3	5	景観の美しさ	2.96	2.89	2.89	2.92	3.03	3.18	2.84
4	2	川や池のきれいさ	2.88	2.96	2.95	2.89	2.87	2.71	2.90
5	3	周辺の静けさ	2.82	2.64	2.75	2.78	2.84	3.08	2.58

(注) 集計結果は「県全体」の結果が大きい項目順に並べている。点数表記は小数第2位までだが、順位は小数第3位以下も考慮し決定している。網かけは「県全体」より評価が低いことを意味しており、比較の際に小数第3位以下も考慮しているため、「県全体」と点数が同じ場合にも網かけをしていることがある。

4-6 地域で景観を損なう要因となっていると思うもの

◇「ゴミやタバコのポイ捨て」(47.9%)が最も多く、次いで「不法投棄」(38.1%)、「道路や河川の雑草」(37.4%)、「ペットや鳥の排泄物」(29.5%)などとなっています。

◇地域別にみると、「地域1(北部)」から「地域3(中部)」では「ゴミやタバコのポイ捨て」、「地域4(東部)」では「ゴミやタバコのポイ捨て」と「不法投棄」が同率で、「地域5(南東部)」と「地域6(南西部)」では「不法投棄」が最も多くなっています。また、「地域4(東部)」、「地域5(南東部)」及び「地域6(南西部)」では「耕作放棄地」・「山林の荒廃」、「地域1(北部)」、「地域2(西部)」及び「地域3(中部)」では「ペットや鳥の排泄物」・「電柱・電線」・「広告・看板」が他の地域に比べて多くなっています。

◇居住地域の状況別にみると、「農村地域」と「山間地域」では「不法投棄」、他の居住地域の状況では「ゴミやタバコのポイ捨て」が最も多くなっています。また、「県全体」の上位3項目以外の項目として、「ペットや鳥の排泄物」(「商業地域」の第2位、「住宅地域」・「郊外の住宅地域」の第3位)、「電柱・電線」(「商業地域」の第3位)、「広告・看板」(「商業地域」の第3位)、「山林の荒廃」(「山間地域」の第3位)が居住地域の状況別の上位3項目に入っています。

		ゴミやタバコのポイ捨て	不法投棄	道路や河川の雑草	ペットや鳥の排泄物	電柱・電線	広告・看板	耕作放棄地	山林の荒廃	建物や工作物の色やデザイン	自動販売機	交通標識や案内標識	その他
県全体		47.9%	38.1%	37.4%	29.5%	22.8%	17.7%	15.8%	12.8%	6.1%	5.2%	1.7%	4.4%
地域別	地域1(北部)	47.7%	36.6%	34.5%	30.0%	26.9%	20.7%	14.2%	8.8%	7.3%	7.4%	1.3%	5.1%
	地域2(西部)	45.4%	31.7%	42.0%	34.0%	19.8%	17.2%	12.2%	8.8%	7.6%	3.1%	0.4%	3.1%
	地域3(中部)	53.2%	36.1%	37.0%	34.8%	23.1%	18.7%	13.0%	7.7%	6.5%	3.8%	2.8%	5.3%
	地域4(東部)	45.0%	45.0%	41.4%	25.0%	14.5%	13.6%	27.7%	25.5%	1.4%	5.9%	1.8%	3.2%
	地域5(南東部)	38.7%	49.5%	48.0%	11.3%	13.2%	4.4%	21.6%	37.7%	0.5%	1.0%	1.5%	2.5%
	地域6(南西部)	47.0%	50.0%	35.0%	23.0%	13.0%	9.0%	27.0%	30.0%	5.0%	0.0%	2.0%	1.0%
居住地域の状況別	商業地域	58.5%	21.8%	30.6%	33.3%	31.3%	31.3%	7.5%	4.1%	12.9%	8.2%	1.4%	5.4%
	住宅地域	52.0%	31.6%	34.4%	33.8%	26.6%	20.7%	10.5%	4.0%	7.2%	7.4%	1.9%	3.6%
	郊外の住宅地域	48.5%	33.0%	39.1%	34.3%	26.3%	20.6%	11.3%	8.2%	7.2%	5.2%	1.3%	6.7%
	農村地域	41.3%	48.9%	43.9%	27.6%	17.8%	12.8%	26.1%	16.2%	4.5%	3.8%	2.4%	3.6%
	山間地域	41.2%	57.4%	37.1%	12.4%	11.2%	6.9%	28.6%	39.8%	0.9%	1.4%	1.4%	2.3%
	その他	63.2%	52.6%	42.1%	36.8%	15.8%	21.1%	10.5%	10.5%	10.5%	5.3%	0.0%	10.5%

(注) 集計結果は「県全体」の結果が多い項目順(「その他」を除く)に並べている。

太字は「その他」を除いた各属性区分の上位3項目を示し、青色の網掛け及び下線を付した数値は最多項目を、黄色の網掛けは2番目に多い項目を、斜体は同率であることを示している。

平成23年度
県民アンケート調査
報告書（概要版）

平成23年11月

奈良県総務部知事公室統計課
〒630-8501 奈良市登大路町30番地
電話 0742-27-8439
